

北
蝦
夷
圖
說

ス
メ
レ
ン
ク
ル
夷
部
附
録

四
尾

ル 4
3627
4



凡 4
3627
4

北蝦夷圖說卷之四

常陸 間宮倫宗口述
備中 秦 貞廉 編

スメレンクル夷の部上

一 シラヌシト云々西海岸凡百五六拾里なる所よキトウシと称
とる地あり此所よりて奥地を滿州附屬の夷スメレンク
ル云々稱する異俗の者住居し其人物を理髮耳飾とも云フ口
ツコ夷小異るなりと云々容顔何となく少く上品
なり其言語悉く異なりて辨知難きもの多し其衣服も
又ヲ口ツコの服とる處小異るなりと云々滿州小至

昭和廿一年
十二月六日 購志

北亞夷圖說



スレンクル夷圖其

橋本玉蘭畫

北亞夷圖說



其二





哺乳圖

て交易はる事屢なるは本綿衣の類満州製の物と用ふ
と多し

一 女夷も亦ヲロワコ夷少し異あるありとちとて其容貌
 艶たる者多し浴湯成粧の事見聞はるととるなりとて
 嗽口拭面はるおやは日毎小是とせれば顔色いつも満
 醜穢の色なり且其情報夷島女夷と大に異ありて相識
 かるべし人々とも能馴て昵し言語通せざれば其言と
 る瞭然たるべしとて時氣寒暖の應接などありて
 小も婉情妖態多く男子と接するの様親意殊に深しと云
 一 女夷裁縫の事小疎きものなり其顔色美艶なりとて

是と賤せうく行嫁いけむら遠とほ一故ゆゑ女夷裁縫りんやの事ことと練熟れんじゆひひちや
殊こと小精勤せうきんなり

一此夷種あま山且さんしよコルナツケ其他韃地たつちの諸夷女夷あまいいちるる
過失あやまちありといいとも教しよひひことなき法はふより其女そのむすめと貴たかぶの情なさけを
るしよ一

一女夷梳頭くしづかの状かたち圖ずれがごと一ひと口くち水すいを舍居しよきてしばば梯はしと濕しづ一是
と梳くしひ男夷おとこあま大抵たいてい自みづかららるものたたく女夷あまとと是こゝと埋うせ
一ひと又相互あひあひふふひひる者ものとと云いふと云いふ

一女夷子あまこを産うむるの事見聞みきこらるらるらるらなり一ひと只其子そのこを育やしなはる
じじるるふふてて固かたれればばくくなるる械くわは縛ばく一屋やより彫木てうぼくと垂たれれく

是と掛かくく嬰兒あやうとと四五歳四五さいふふる皆みなかかくののぶぶ一其下本器そのしたほんきと
置おて遺尿いせうととくくる物ものととひ

一ひと手てハ束縛そくばくせせられて動うるる次つぎととひひららびび足あしハ屈伸くつしんららるる一ひと
どもども自由じゆうかららるるちちるる然しかれれども其飄ひょうたるるちちの快たききもも
又地習ちじゆののちちるるちちるるちちるる一ひと嬰兒あやうハ論ろんなくく三四歳三四さいの児ことと
ともとも涕泣ていきととるるととなりなりと云いふ

一含乳かんにちヤヤむむる時ときハ束縛そくばくののちち是と抱かかりり合あひひ飲の終はるるとき
く又掛かくく本ほんのの如ごとくく一ひと含乳固初かんにちこ
は出いででる

一飲食おんじちち南方初島なんぽうしよとう小異せういるるちちるるちちるる一ひととといいふふとと満州まんしゆより粟豆ももぢ
麥蕎麥むぎそばの粉こなと交易かうぎ一ひと来きて是と食くひ是と異いとと然しかれれども其

易るところ無^{ちま}数なれば常食とちひはす^{ちま}及時々稀に嘗
食ひ

一日中の食度を定めたるおやちく其飢渴は従ひ食ひ
おとかりと^{ちま}くども大抵西三度と限るとらるる^{ちま}一男夷
を朝起のより其^{ちま}所業よとらるる^{ちま}漸^{ちま}小飢と催ひ頃及で
四時^{ちま}分家小^{ちま}する其内女夷の家よあつて朝^{ちま}餉の設けを調へ夫
の帰るを待て膳とら^{ちま}む其勸食の状大小 本邦と異^{ちま}し
て飯菜を食ひる^{ちま}ちく^{ちま}假令^{ちま}家内二人かれば先釜中の魚
と三ツよ分ていふも多少なり様よ三盃小盛^{ちま}是と勸^{ちま}め其食
終る^{ちま}迄待て又草根の煮物小魚^{ちま}鮎の油と^{ちま}ら^{ちま}茂たると三椀

小^{ちま}齊^{ちま}く盛て是と^{ちま}ら^{ちま}是^{ちま}念^{ちま}食^{ちま}し終て後他の粟麥粥と
とら^{ちま}む如斯^{ちま}らる^{ちま}あ^{ちま}ち^{ちま}れ^{ちま}ら^{ちま}更^{ちま}は同物と二盃と食ひる^{ちま}大
と^{ちま}ら^{ちま}大抵何物と食ひる^{ちま}ども^{ちま}饗^{ちま}應^{ちま}の席よあ^{ちま}ら^{ちま}され^{ちま}習^{ちま}
味^{ちま}弄^{ちま}食^{ちま}て多^{ちま}食^{ちま}ひる^{ちま}ち^{ちま}か^{ちま}く^{ちま}悉^{ちま}く^{ちま}儉^{ちま}あ^{ちま}て其^{ちま}節^{ちま}と^{ちま}ら^{ちま}せ^{ちま}
是^{ちま}の^{ちま}食物^{ちま}悉^{ちま}海^{ちま}山^{ちま}よと^{ちま}ら^{ちま}く^{ちま}人^{ちま}造^{ちま}の^{ちま}力^{ちま}の^{ちま}不^{ちま}あ^{ちま}ら^{ちま}き^{ちま}れ^{ちま}ば^{ちま}多^{ちま}く
得^{ちま}づ^{ちま}き^{ちま}物^{ちま}不^{ちま}あ^{ちま}ら^{ちま}び^{ちま}く^{ちま}飢^{ちま}渴^{ちま}の^{ちま}事^{ちま}あ^{ちま}ら^{ちま}と^{ちま}怒^{ちま}る^{ちま}心^{ちま}ち^{ちま}ら^{ちま}
とい^{ちま}ふ^{ちま}と^{ちま}云

饗應の事南方と異^{ちま}し^{ちま}て其^{ちま}席^{ちま}貴^{ちま}賤^{ちま}の^{ちま}次^{ちま}序^{ちま}と^{ちま}ら^{ちま}ら^{ちま}殊^{ちま}小
嚴^{ちま}ち^{ちま}ら^{ちま}家^{ちま}中^{ちま}の^{ちま}正^{ちま}面^{ちま}よ^{ちま}坐^{ちま}ひ^{ちま}る^{ちま}者^{ちま}を^{ちま}上^{ちま}客^{ちま}と^{ちま}な^{ちま}し^{ちま}其^{ちま}左^{ちま}右^{ちま}順^{ちま}と^{ちま}以^{ちま}て
列^{ちま}座^{ちま}し

一 酒ハ地製のものなり悉く滿州より交易し來るところ此のもの
 ふして其名をアルカと稱し 本邦の焼酎かうホーと稱し
 る錫壺リウツツを盛る湯中に入せ又を熱灰中小埋て温酒となり是
 とらむ杯を陶器ヤキモノにして滿州より易く來るものちや宴中
 一杯を巡環シヤクワンして是を飲み他器を出しあふあり有ハ其時より
 了割烹種々の差ありと之や此下西三種を出して其概と
 つらぬツラヌ 滿州より交易し來る酒瓶錫壺杯其他夷の杯盤と
 ちり處本邦の漆器固悉器械部の未だ写し出し
 一 乾鱒 乾キーヒル夷称ハケ
 右二味各細キョバに判ハく僅小鹽味を加シ蕃椒粉シヤウと合スて一種と
 一 生魚鱒鮭の類と水煮スて一器小盛り置別シヤンと稱する海

草似昆布者 キトヒル或は葱ネギの類と合判ス是を水ミに放つ時其
 水はむつて少く鹽氣を存し是を以て水煮の魚肉と食ふ
 一 大豆 キトヒル 湄兒豆其他草根草實と合スて能く水煮
 一 魚油とスて和物とスる
 一 蕎麥の粉と以て餅と製し魚油と注スて一種とス
 一 粟と粥となスて一者より滿州より遠來のものなれど珍味
 也ハ其大概如斯類シて此他獸肉の類有リ但やて割烹シ
 一 凡諸肴何ふカび一種毎ニ一盆盛ルるありけり壁ノ肴有リ五種
 あり時五盆と出シ平生の食事と異スて客毎ニ盆と設ケ
 以其次序と追テ一盃過食シ其態主人強勸スハ客固辭シ

るたゞの事しあつて蝦夷島宴飲の類ふあつた

一 此夷域ふまゝくは酒も殊ふ少く貧賤夷のちきり其味と
知らざる者少くべ然る小林藏持ゆく所れ砂糖と出して是
を嘗てひる小唯美ちりて称らるるやうて更餘りと食
ふ者なく酒烟草と出して少く是を嘗てむんハ忽其味と
悦び餘りとを食ふと殊に切やて甚たれたる者ふまゝくハ顔色
相貌半生ふ異なるふまゝくはあつ北夷の嗜好是を外あて
他物有とたれたるやと知るべし

一 此夷種もまゝ其地の寒暖よめて穴居するものなりせざ
る者あつ其穴居せざる者の居家ハ大抵五六間四面乃至七

八間四面許或は縦長く横短き者あり小方木を以て製一家の四方戸口

あつて明とつて又出入ゆる屋を木皮を以て是をわらひ其
上小方木を雜草を以て風の吹去るむとて思はれ縦横
小木を伏せ置と圍のどし

一 家の裏林と四方小設く其面石を疊て是を築其内と空虚
あり其西端戸口れ所ふる側と上面と穿ちて竈とたひ故
は其炊烟竈外は發せびて悉く林中を廻り家の四隅に達し
て後家外に達し筒木中より發しよりぬ是を以て嚴冬積雪
の時とつても家内温暖ありて穴居せびとつても可なり
一 家の中央に初冬穴居中のまゝ土間ありて其中央に閣と後

一 け飲食の雜具其他日用の器械あり総て此閣上に貯ふ
 一 戸扉ハ悉く割板ヲと以て是と製し障子ハ 本邦のちと格子
 と製し魚皮と以て是と張る

一 冬月ニふる時ハ四壁の表面土ヲ粘ヒて細隙の風を防ぐと云
 一 其穴居ハ居る者夏月居る所の家其製総て同トと云レども戸口
 一 一所ノの是と殺けて外ニ出入スる所なく窓と屋上ニ開
 て透明ニれ所とちニ林ノ三方ニ設くと云レども石ヲと以てせむ
 一 ちと板ヲと用ふ家ハ中央大なる爐ヲと製して外ニ竈氣ヲと設け
 一 其側周ニ置テ雜器ヲと貯ふ

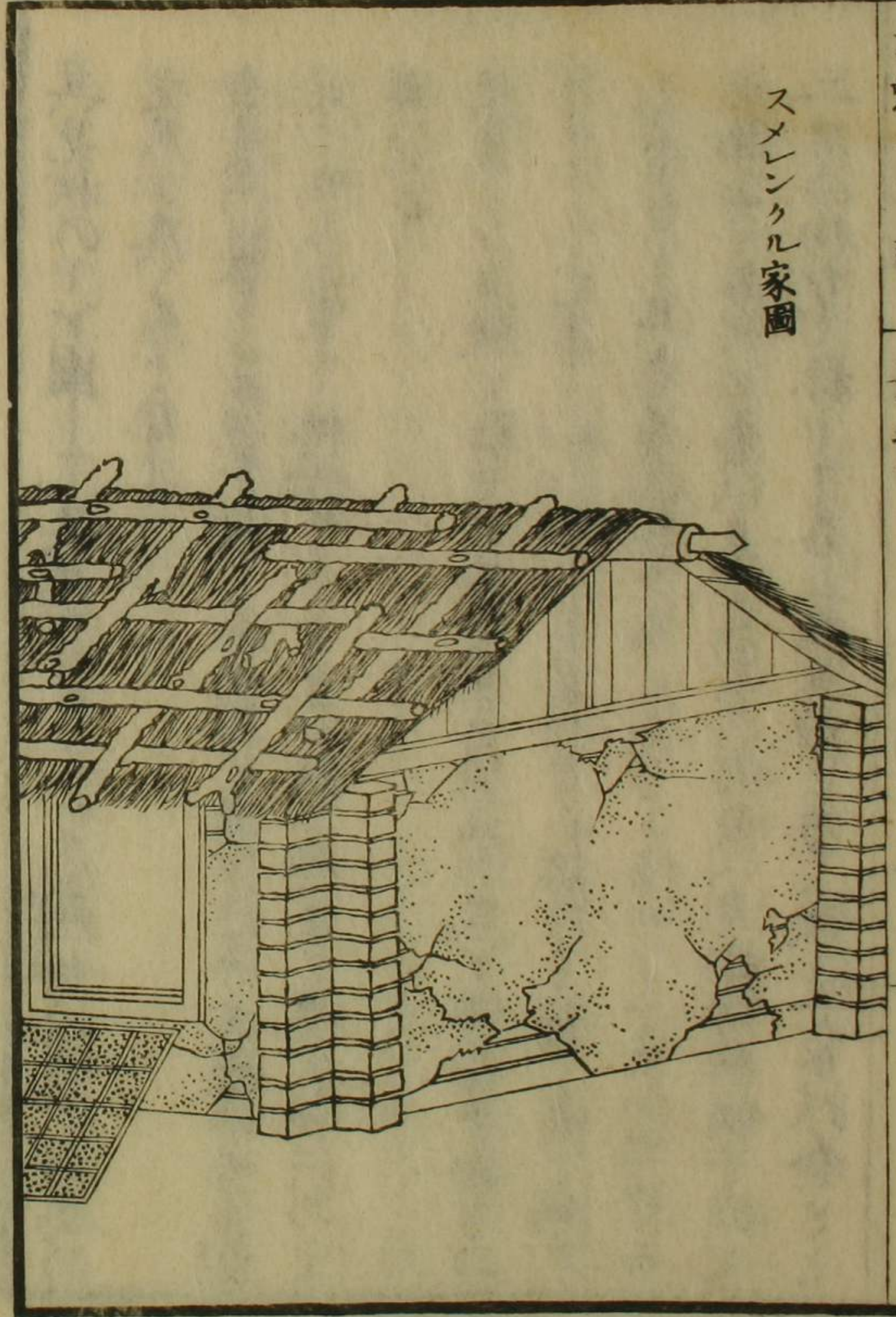
一 其穴居の形林藏ニ其表面のニと見て其居中ニと知らレ故ニ

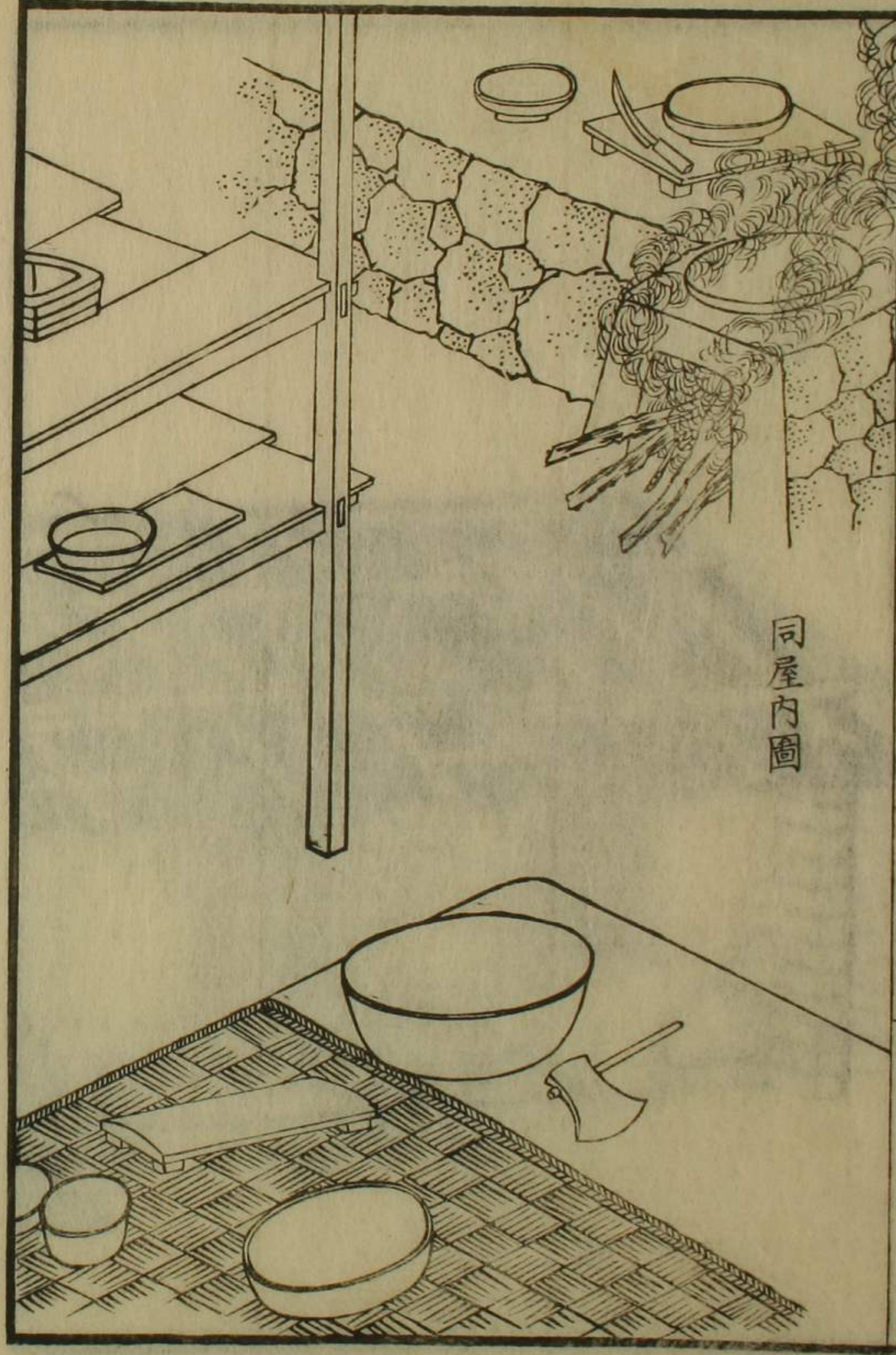
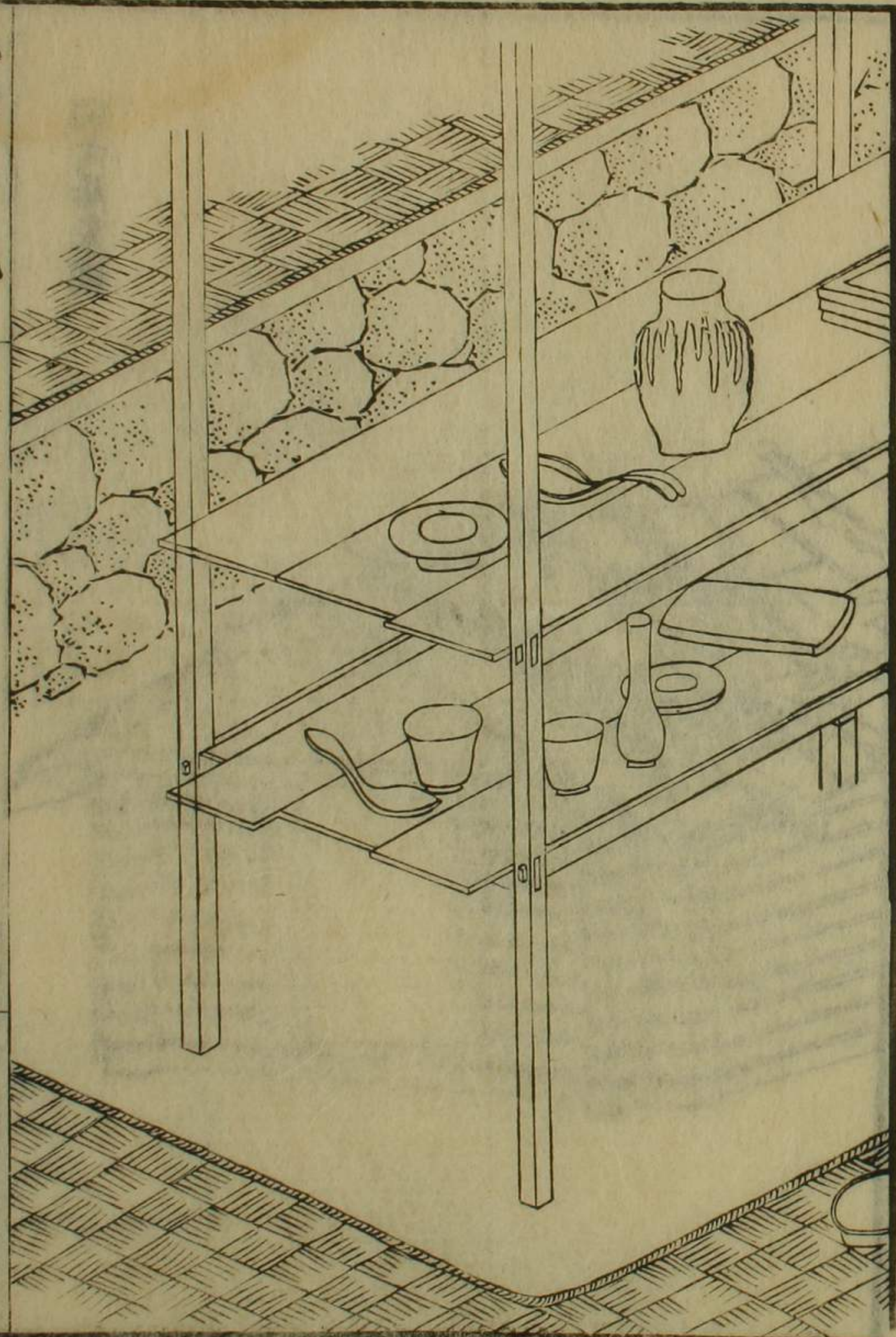
其見状のニと圖シて其見スるところヲ圖シ如クハ蓋一初島の
 穴居ニ異スるニなり

一 倉廩の製ハ居家ト同シ山ニ小行テ木ヲとほリ其根ノ殊ニ蔓
 延シ地上小置テ轉伏セざる者ト搦テ持來テ礎トとちハあリと
 圖シのニあり

一 産業ハ漁獵ト勤め交易ト事トハ且ニ犬ト伴テ事南方ノ
 ぶレくレ尤モ甚ク 夷ノ異ヲ貧富ノ者ハ小論ナく家ニ是ト飼ガ
 ぶレ者ハ其惠養ノ厚キ事ハ南方ニ倍セるニ一家ノ内男女
 一 論ハ各犬ト養ヒ是ハ家翁ノ犬ハ老姫ノ狗ハ嫡子ノ犬
 二 男ノ狗ハ各ニ稱シて各ニ頭五頭ト養フ故ニ一家ハ養トと

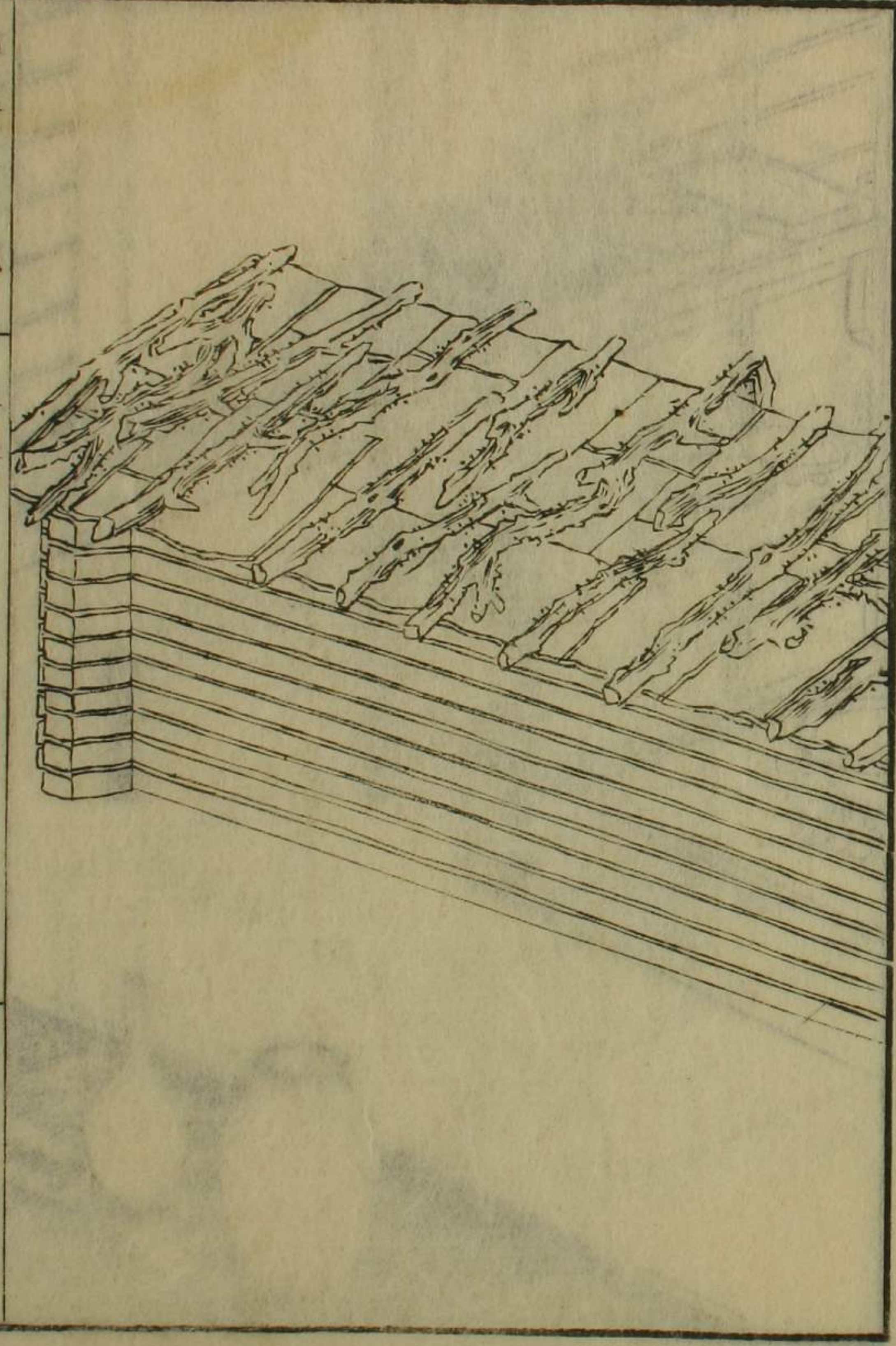
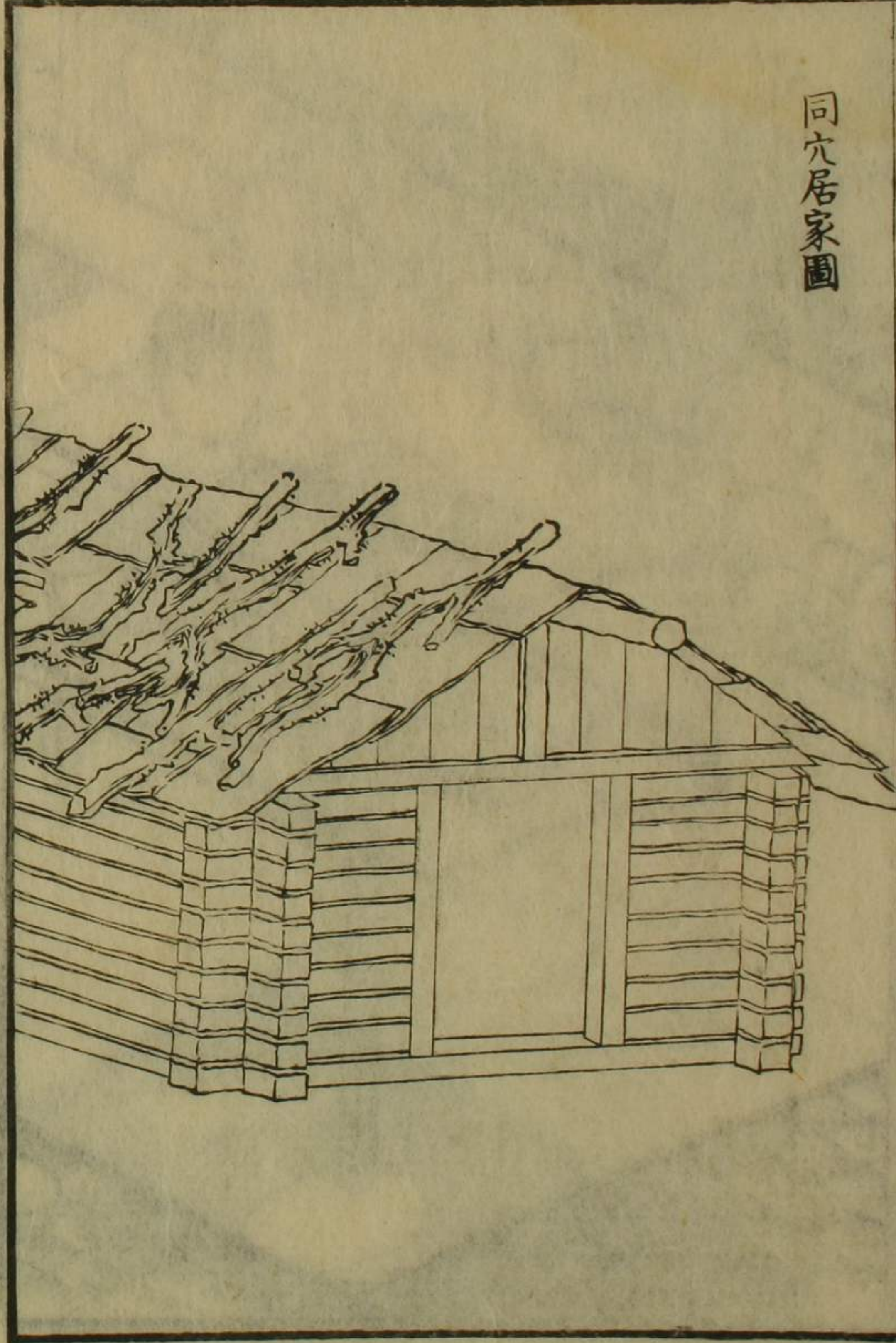
スメレンクル家圖

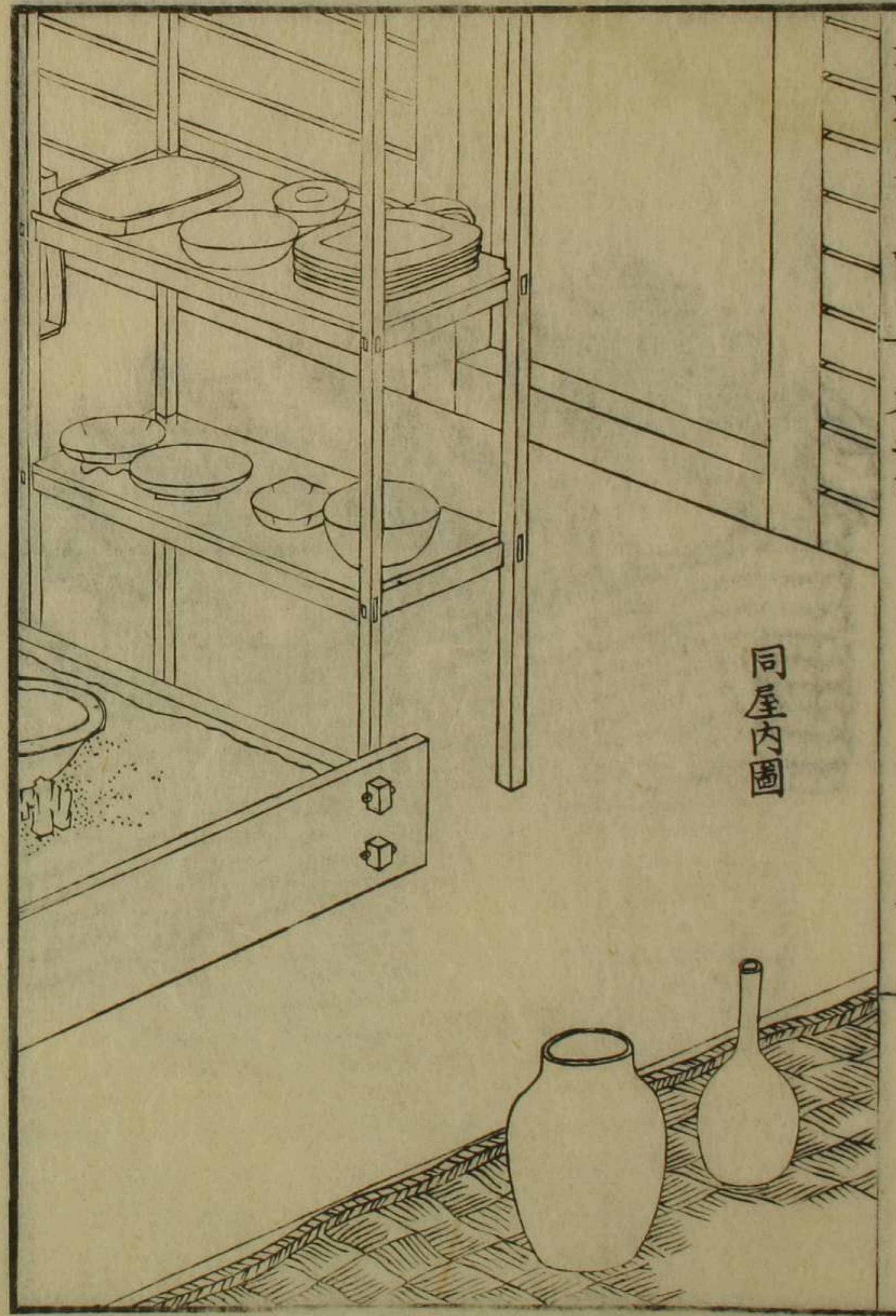
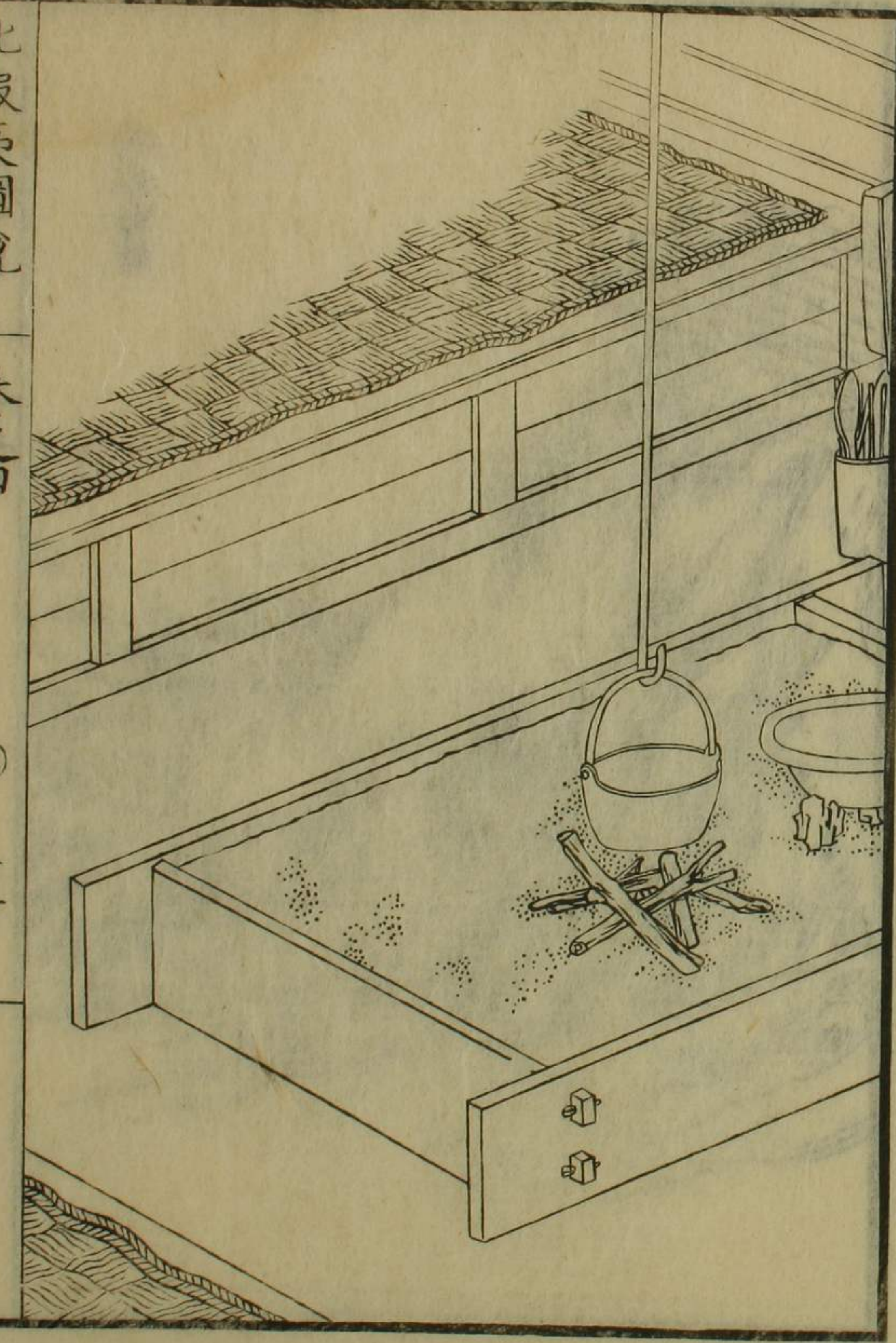




同屋內圖

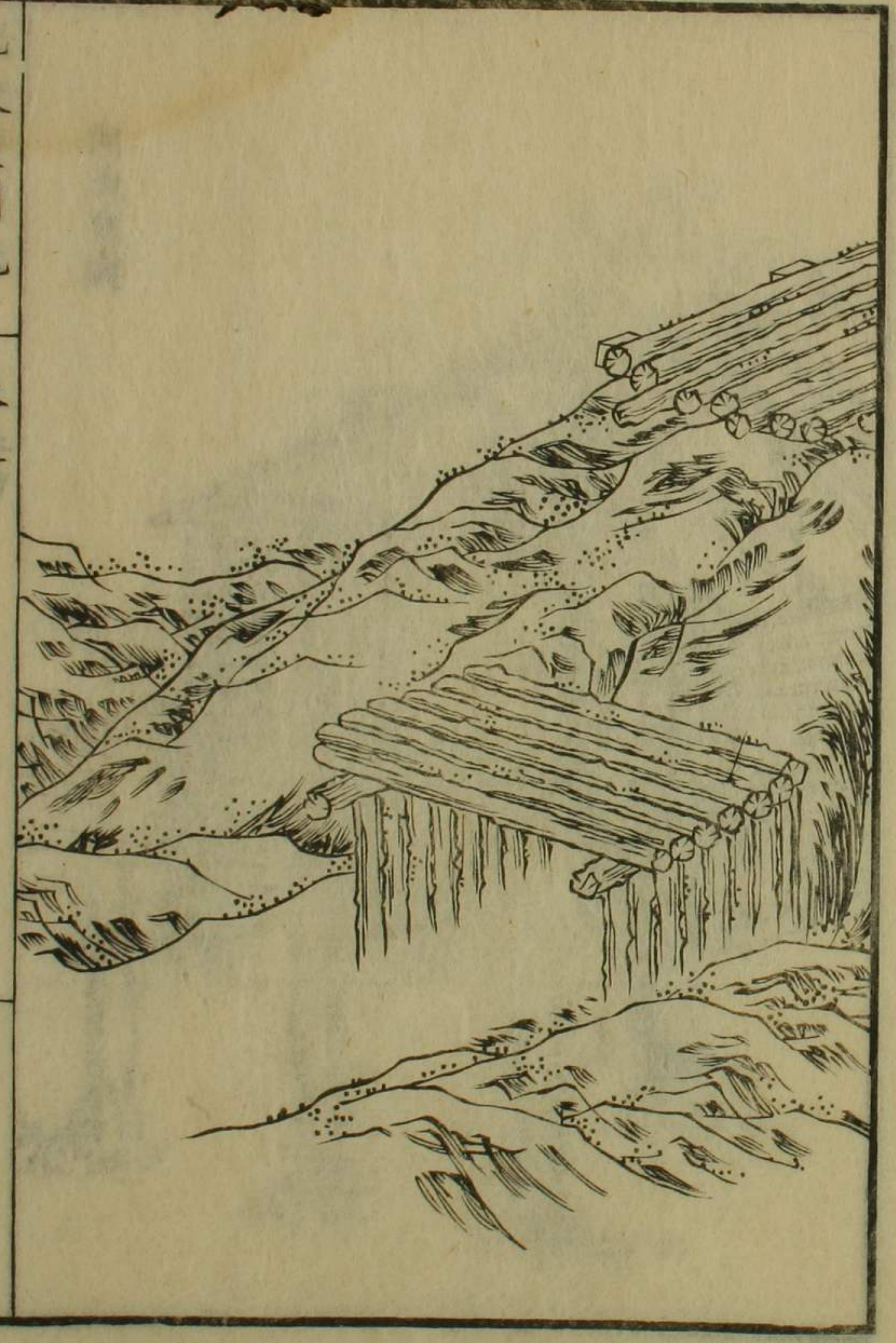
同穴居家圖

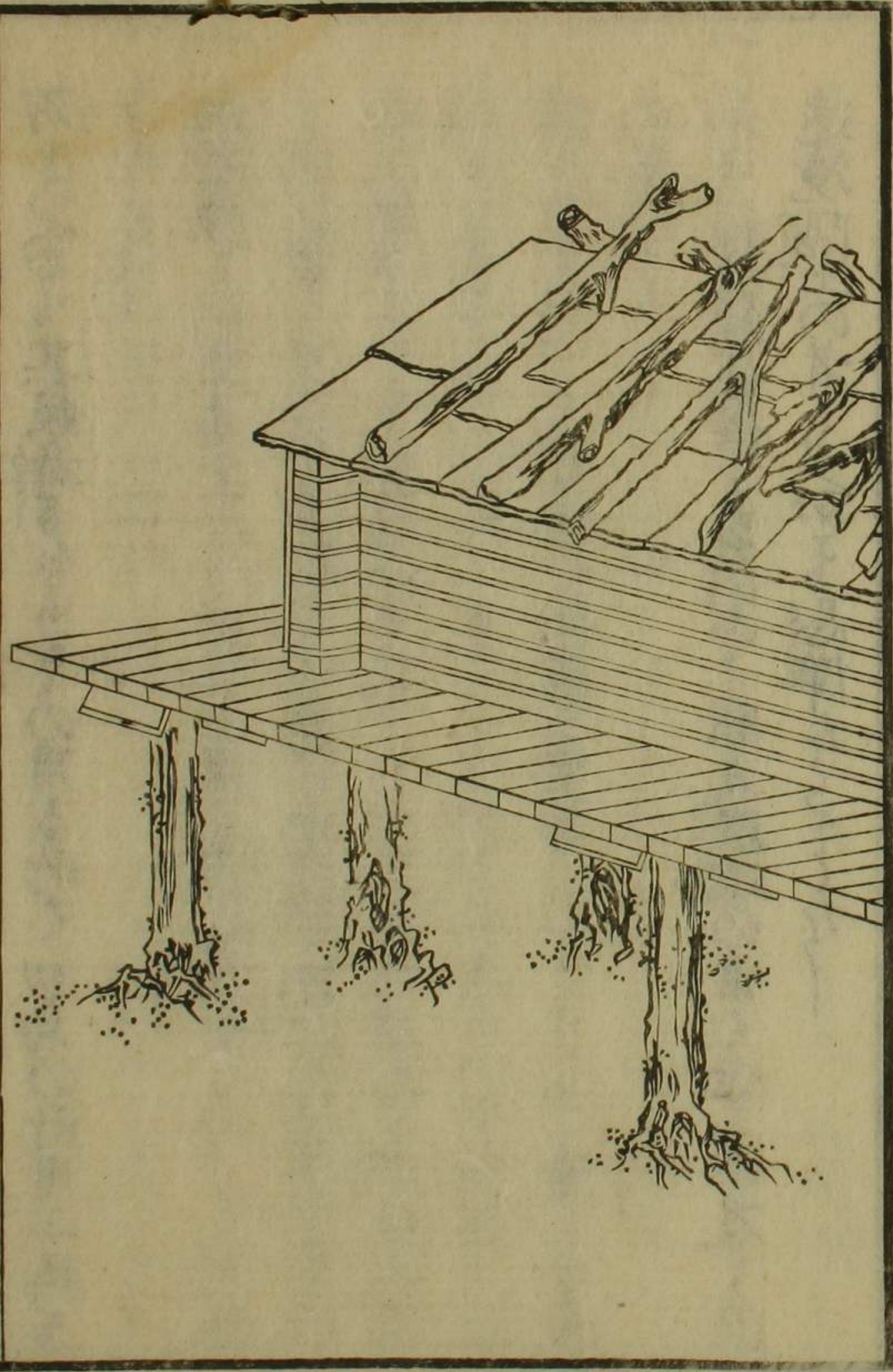




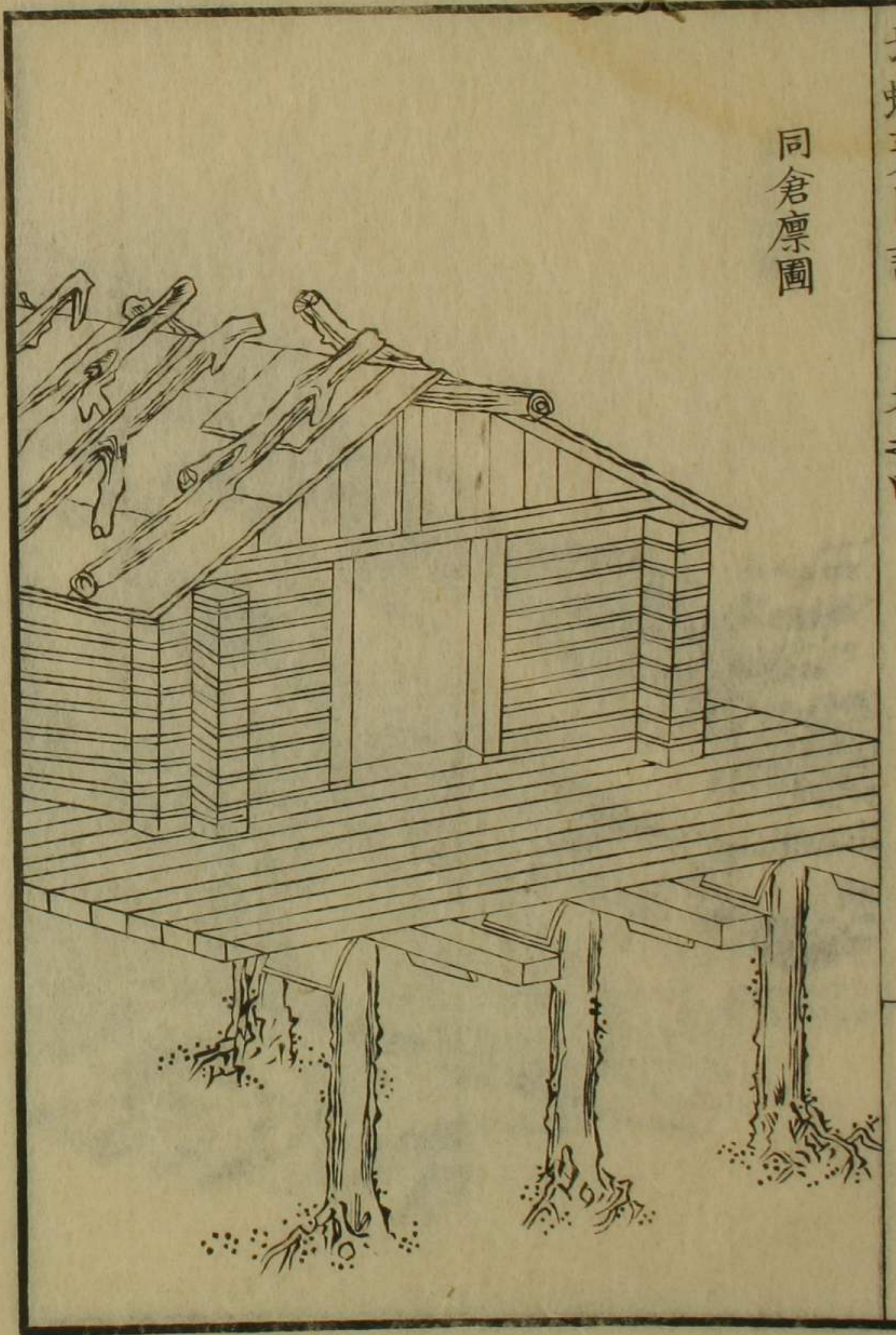
同屋內圖

同外面圖





同倉廩圖



ろともども其數許多なる所の用る所を初島の所用小異なる
るありたり

一 此夷種も交易とありて事南方夷の如くありて尤甚
一との實は男女の差別なく悉く交易と勤む凡一里半里乃
所は諸用ありて出行いとせども必交易の諸器と携行き相
互に交易とありて歸り來ると云假令同集中の夷相集て談
話ひるともども暫時の間忽ち交易とありて實は生産
の第一なり

一 此夷種諸物貸借とありて朋友昵近の者云ふ及ぶ
遠境隔土の者ともども忌憚とありてなり

一 此夷も鍛冶となし事南方夷は異なるありて此夷域は
ててハ鍊物ありて無數なるを地鍊となして者少し故
に破鍋ると貯置て地鍊とありて其鍊かるともツク鍊なれば
練磨の事大に辛苦なり且其鍊鍊磨して終て刀となして其の
間漸く減却して僅小十分の一を得ると云

一 漁獵の事総て南方は異なるありて只差網と設て魚を得る
小園にてくたひものありて潮水増減の時小當て灣口などの
迫處ありて是をたし魚を得るありて許多なり

一 ノテト邊の海岸地圖中載らるる沼湖多し其には
鴨のこき小島羣集しと云霞霞のどし夷兒戲遊の暇是

差網漁圖



北
坡
圖
說

夷兒捕鳥圖



北
坡
圖
說

卷
之
四

と得るや、圍の如く、西見相對して繩を引一見して鳥と
 追しむ鳥驚き、繩を越るの時西見繩を踊りて是を打
 小大抵一撃ふまゝ七八羽と得ると云、繩長々三四尋長夷も
 まる是とるひとつとどし大抵夷兒のなる處なり

一 漁獵の事、総て南方夷に異なり、其性本より剛
 強なるものなれど、其業とるひと晝夜のちまぐ、致して
 て飢渴を忍び、けしむるや、南方夷の及ぶ所とるなりと云

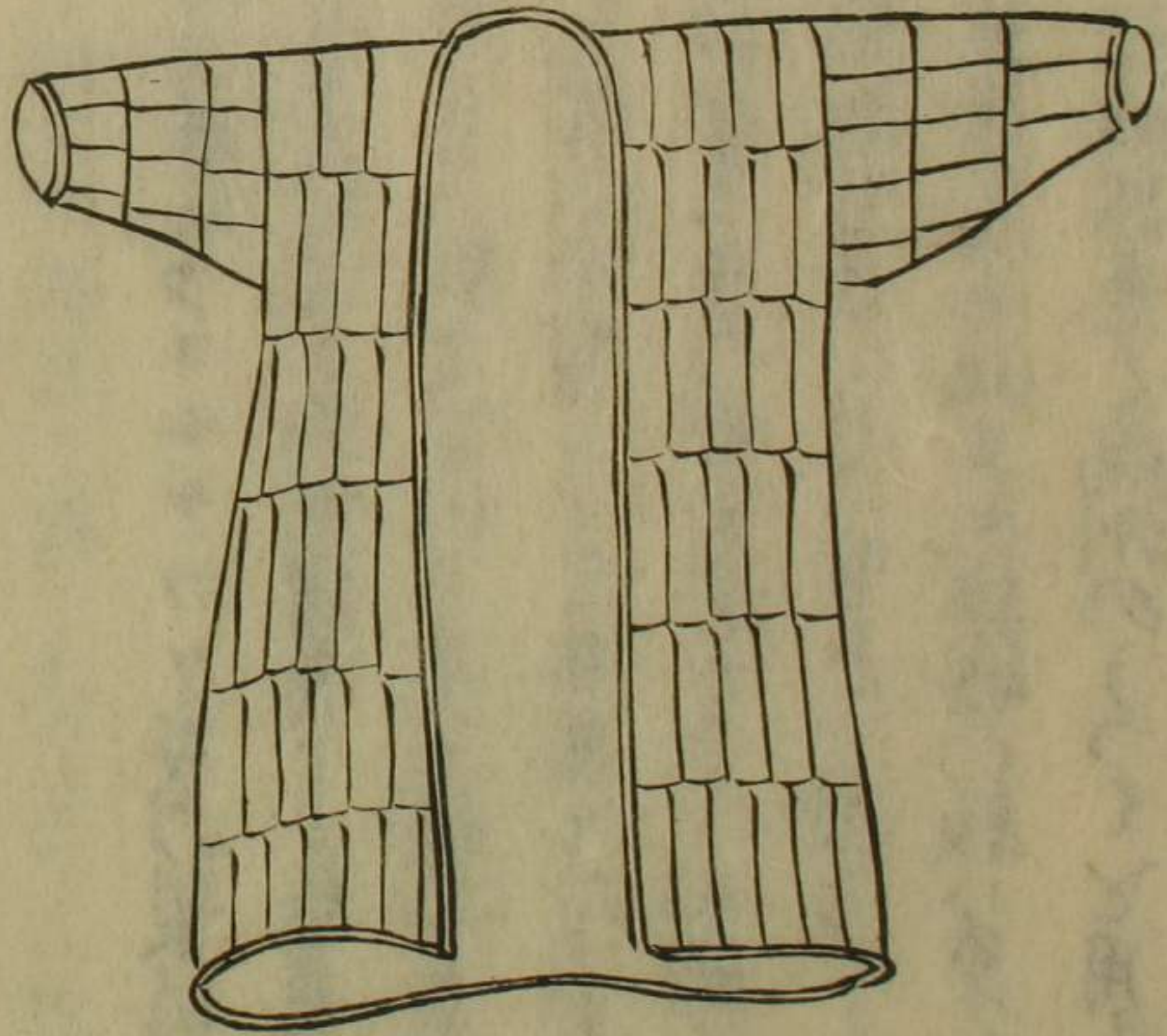
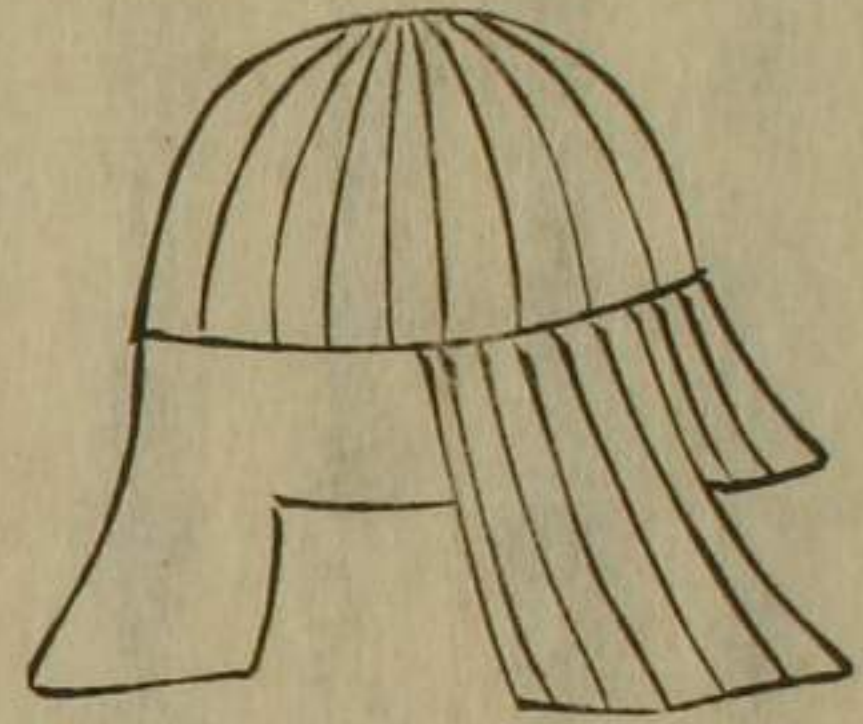
スメレンクル夷の部下

一 此夷種の宝器と称する物、蝮夷島に異なり、短刀、鐔、
 目貫の類、皆本邦の易へ渡りて、そのものなるなり、又満州より

来る處の短刀あり、其柄鞘と蝮夷刻のざざ彫文、千ヤン
 と以て塗たる物なり

一 夷寶の内、ブツ千と称する者、はウコルテツケ夷の製し、と
 ろろみ、て甲冑の粗なるものなり、満州諸夷より、皆是と宝
 とし、其製薄鍔と以て札や、た、獸皮を以て是を綴り、裏に獸
 皮をつく、其状圖のさ、殊小粗製なり、て用器とた、凡國争の
 物、ふあ、びと、つ、と、夷中第一品乃寶器とた、凡國争の
 事ある時、酋長たる者、其他富貴の者、皆是と被る
 一 平生用るる、そのの器械、漆器、斧、鍋、其他鍔物の類、多く
 本邦の物を用ひ、其他の諸雜器悉く満州のうつて用ふ

ツク圖

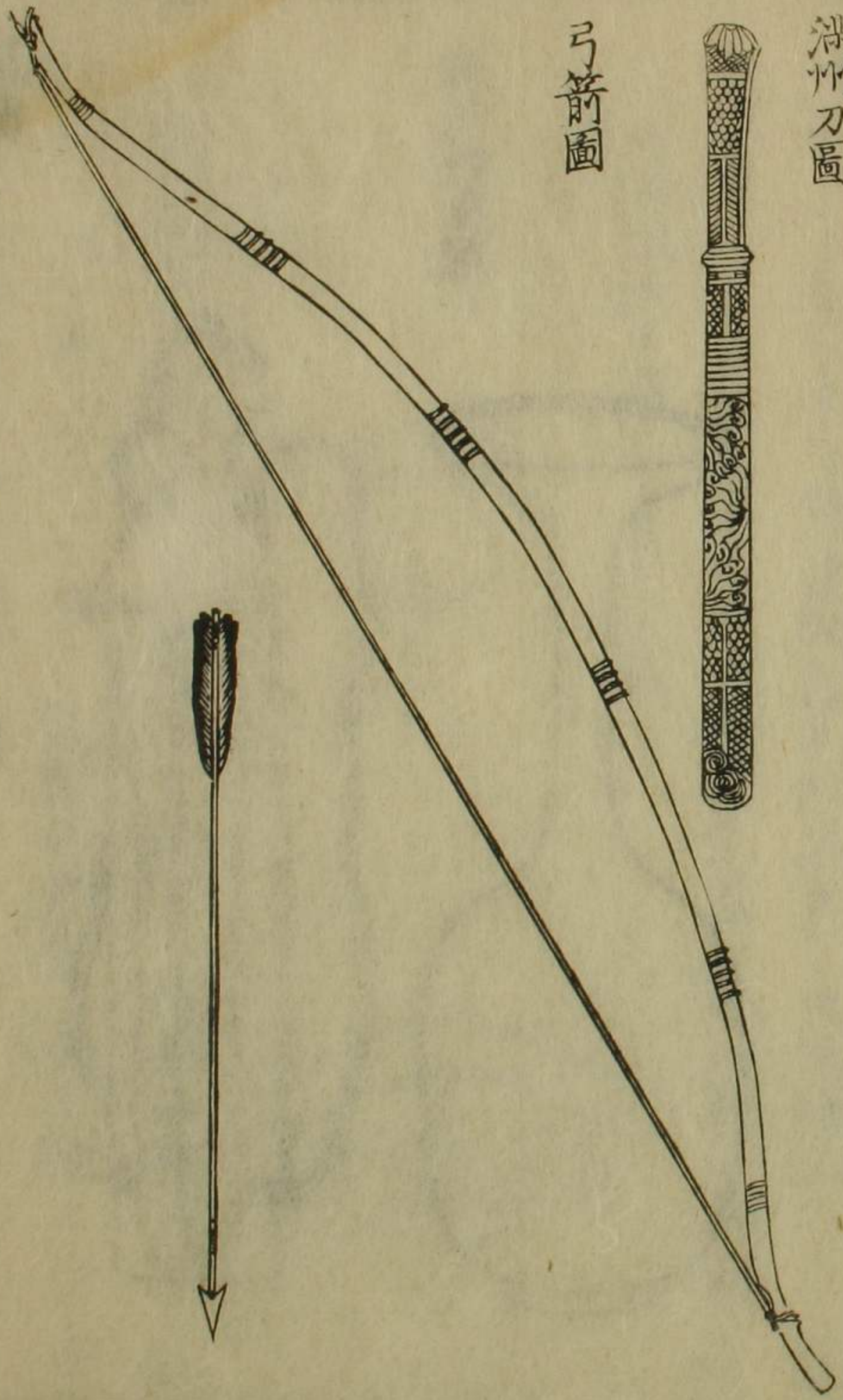


一 弓矢の類 蝦夷島と異ることあり 唯 鯨の 其製と異ることあり 故に圖と出

満州刀圖

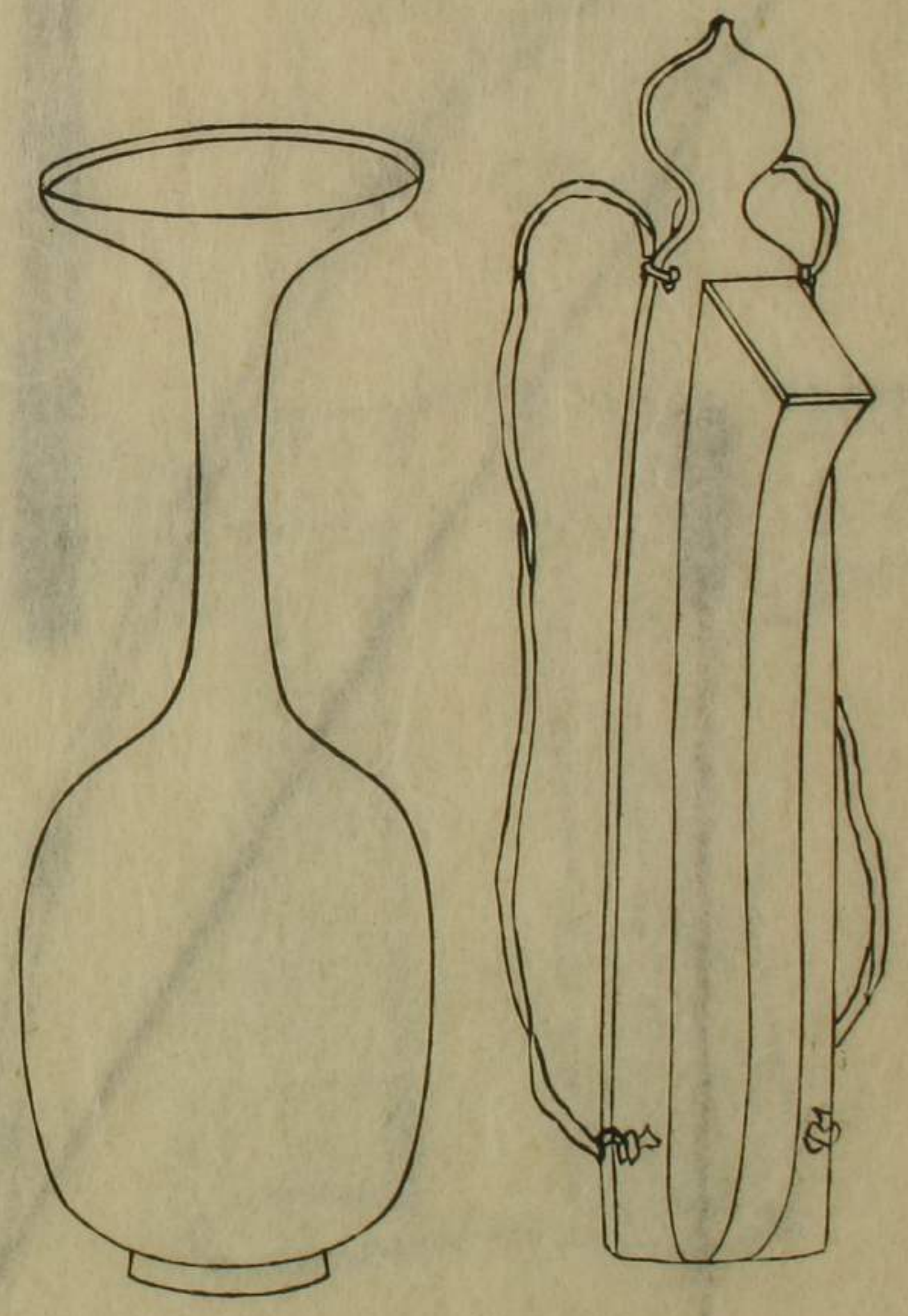


弓箭圖

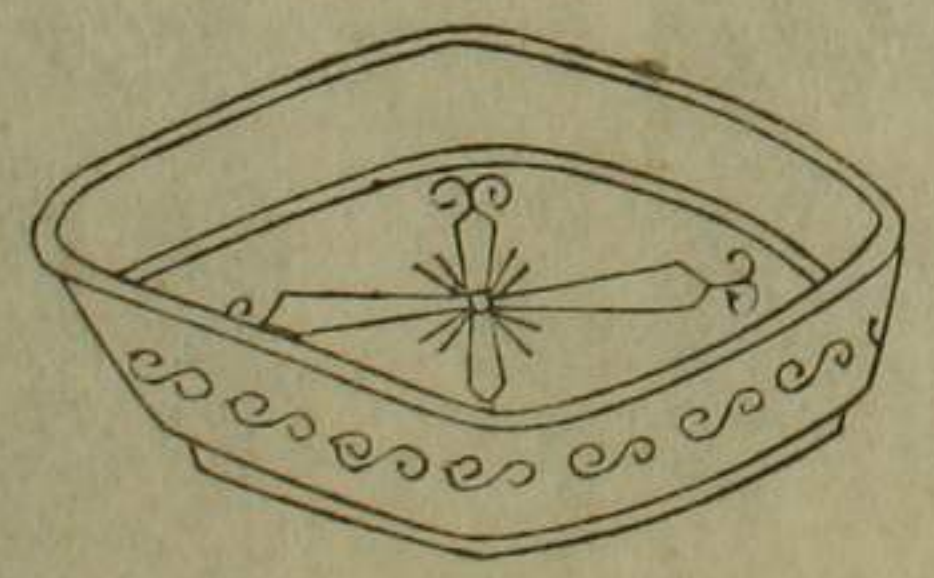
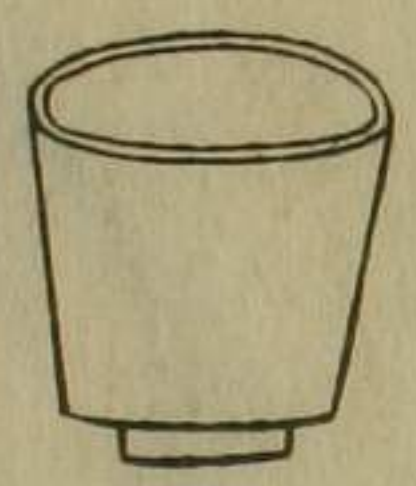


簾圖

滿州錫壺圖

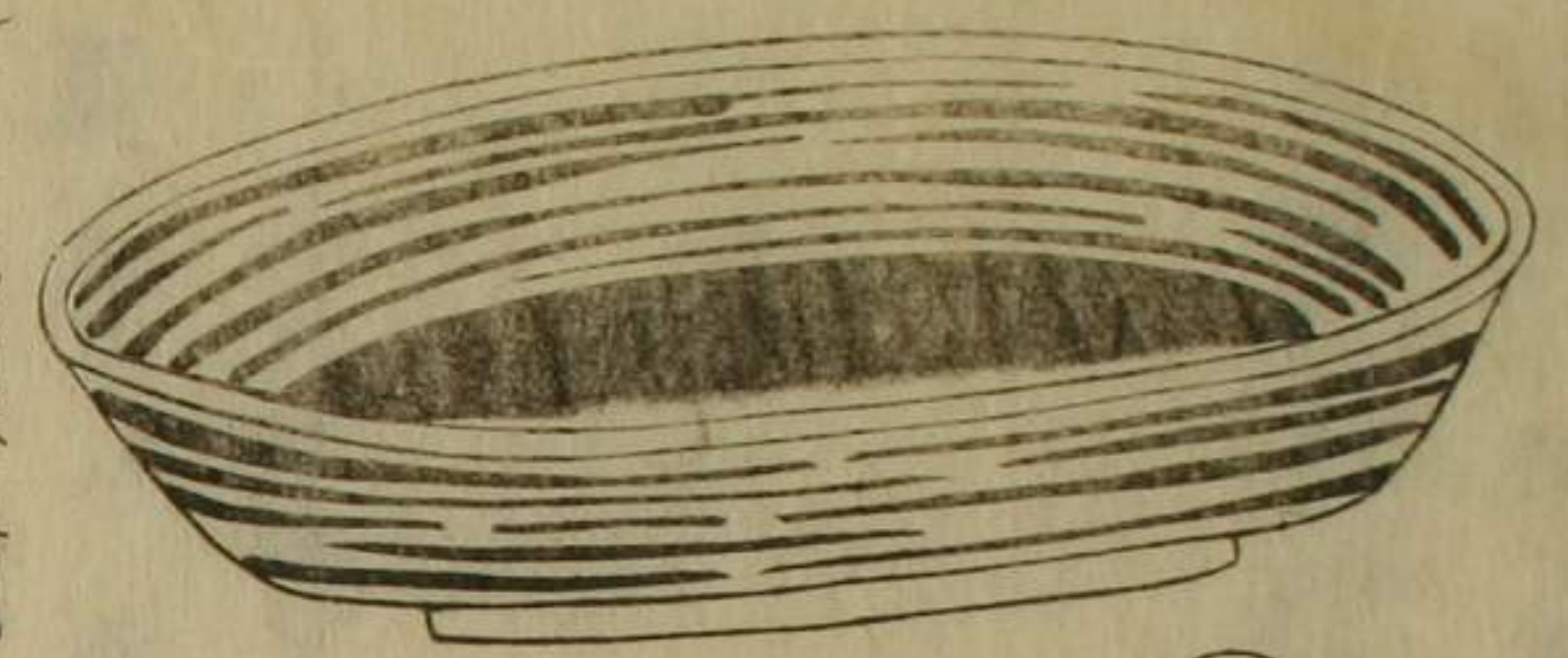


一 滿州より易く来る錫壺陶器其形其大と大抵圖の如く杯盤は多く本邦の杯又く四腕の末蓋と用ふ故に其圖を附し又滿州皿と用ふるものあり

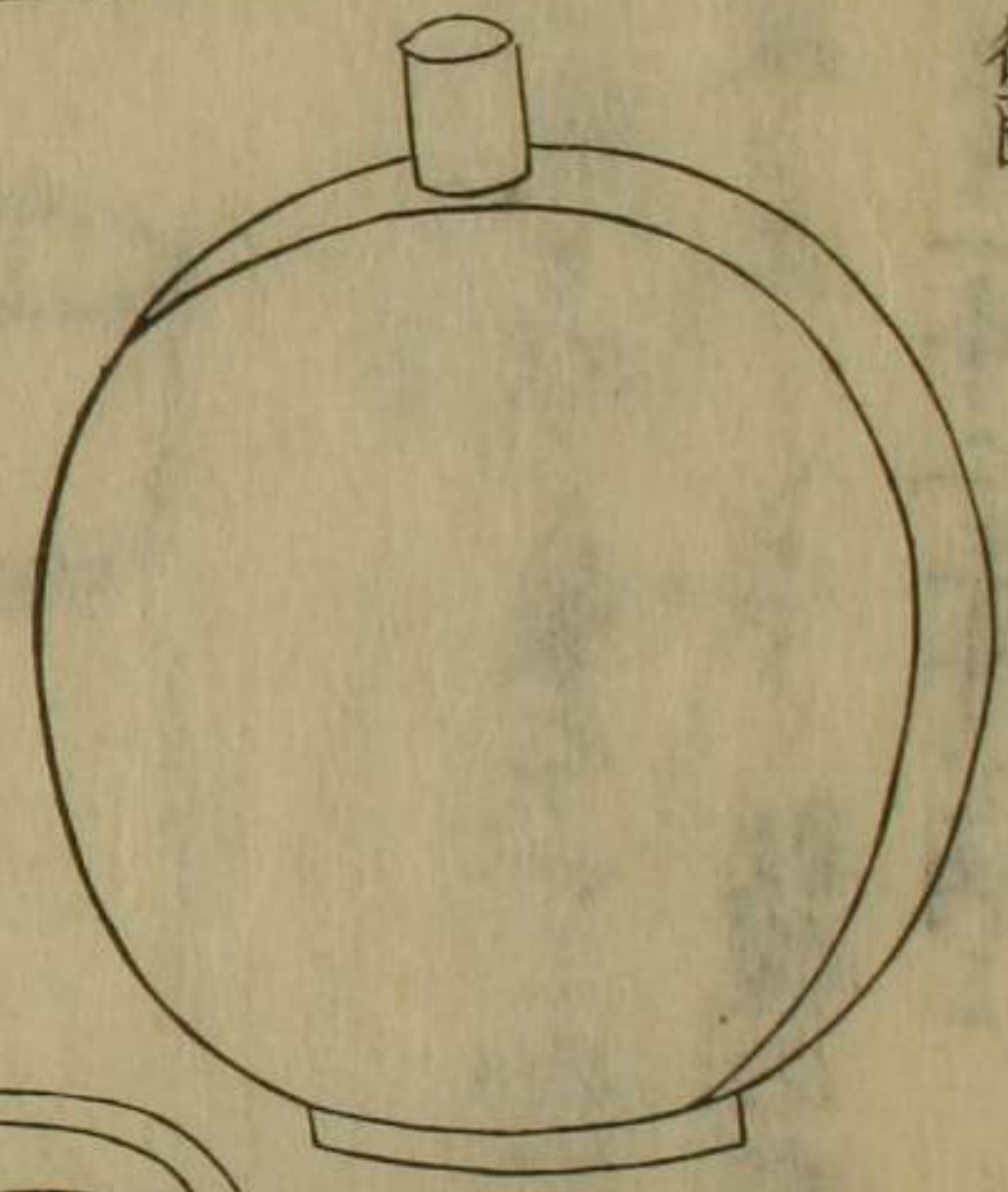


一 初圖の酒瓶は秋と以て製する籠ちり内面澁糊を以て紙糊み酒を盛るべくさう敗損の愁なり大小種あり大抵七八升と一斗二三斗を納る

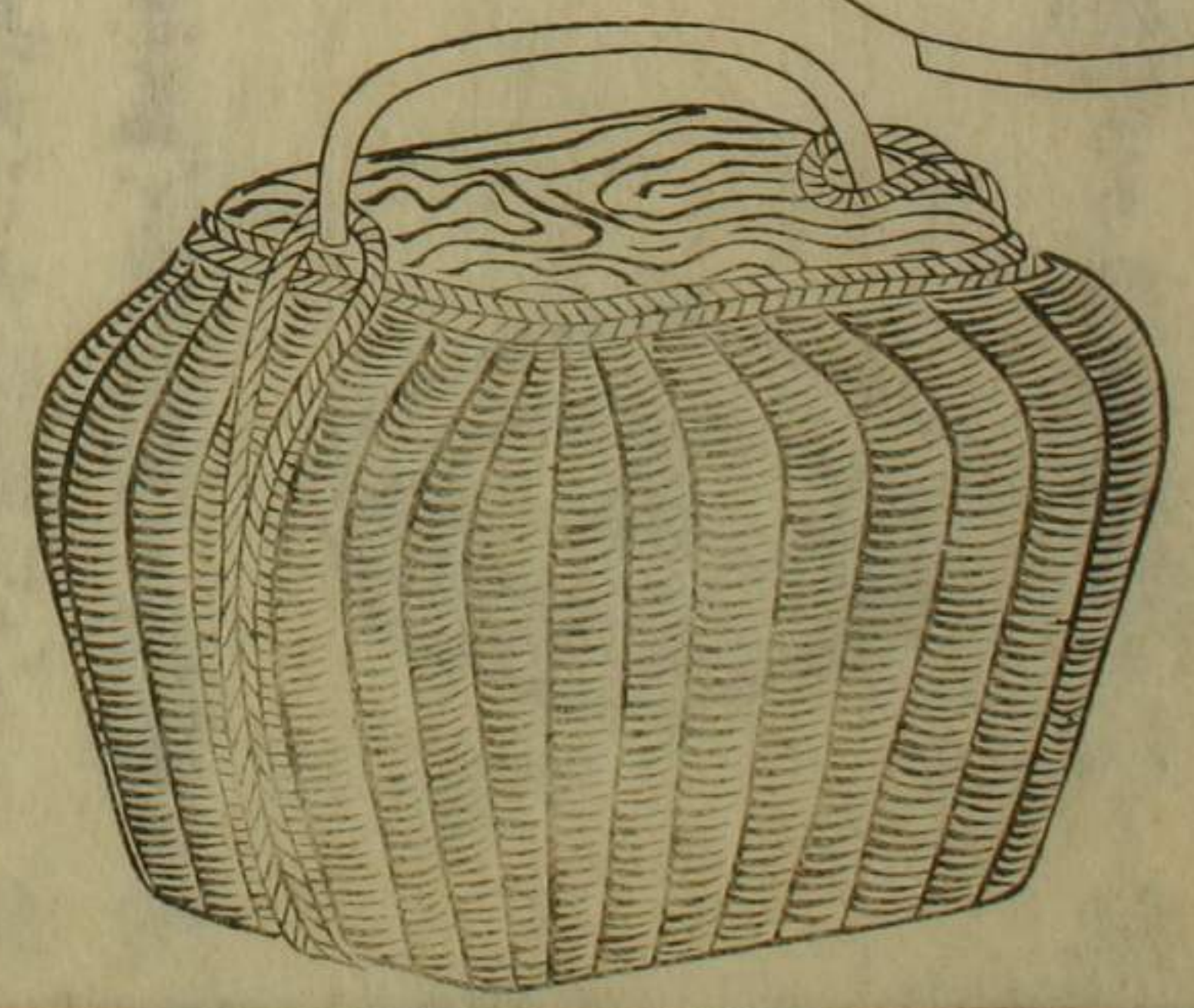
酒瓶 後圖



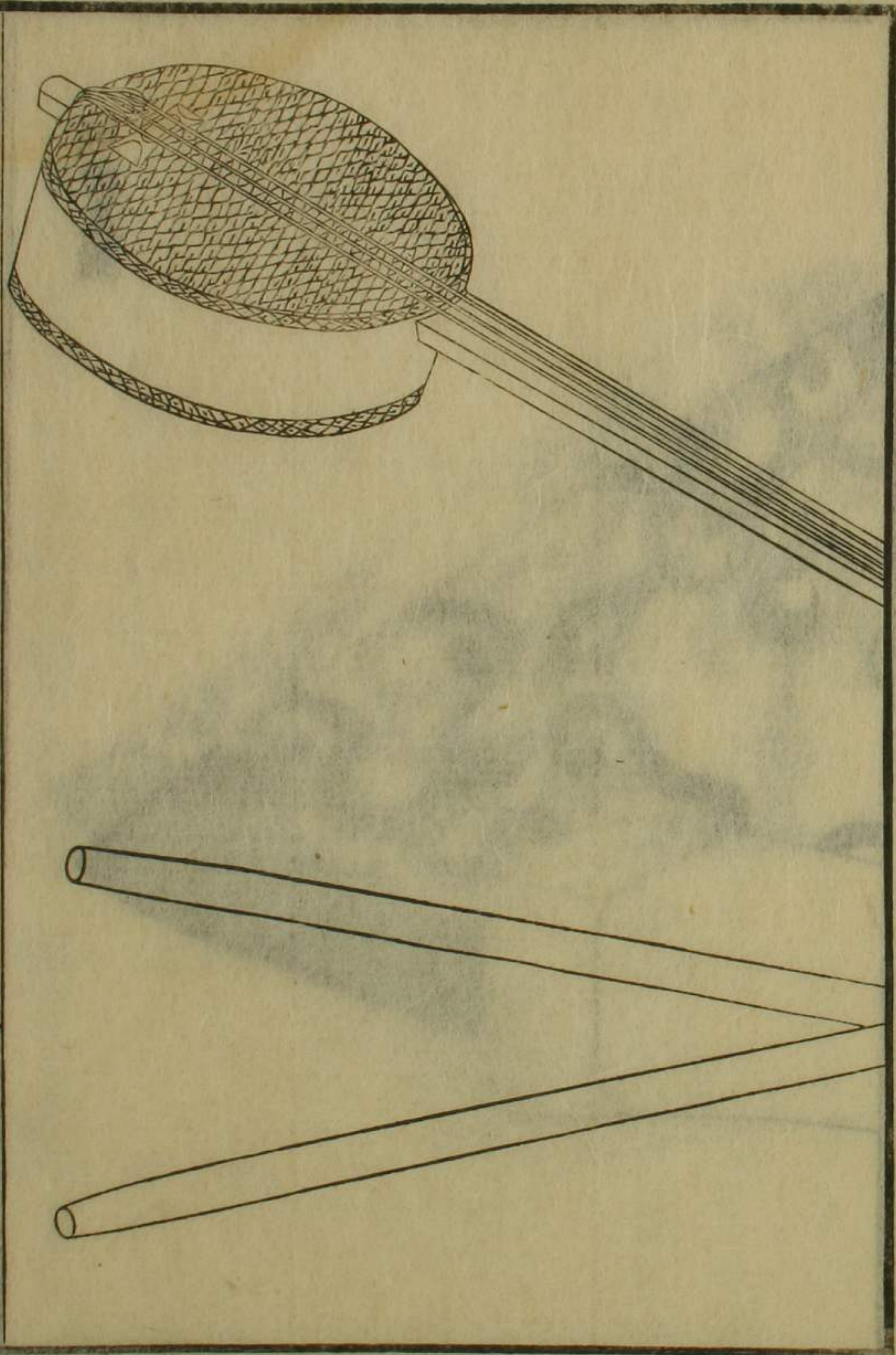
コルテツケ夷製盆圖



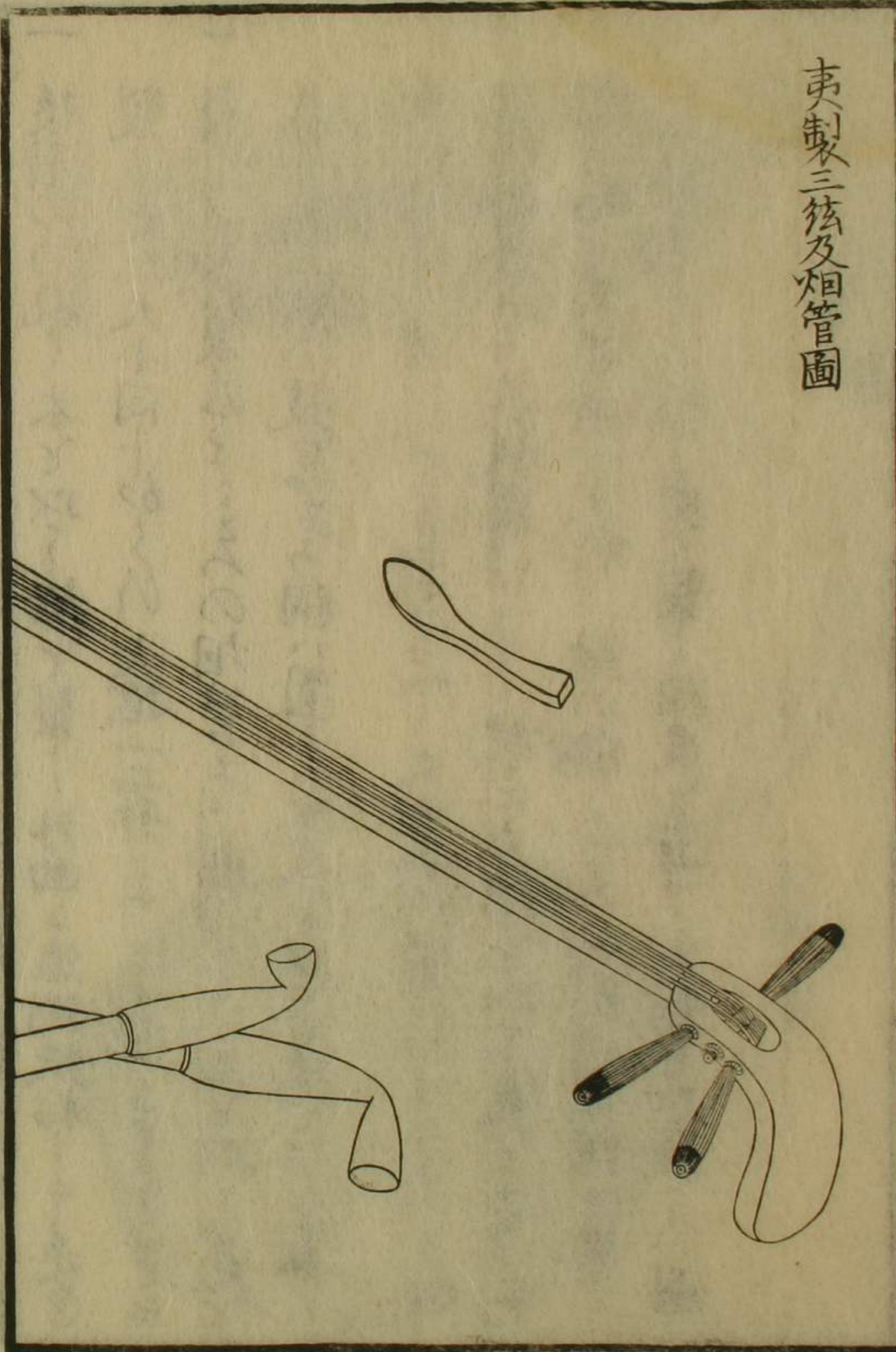
酒瓶 初圖

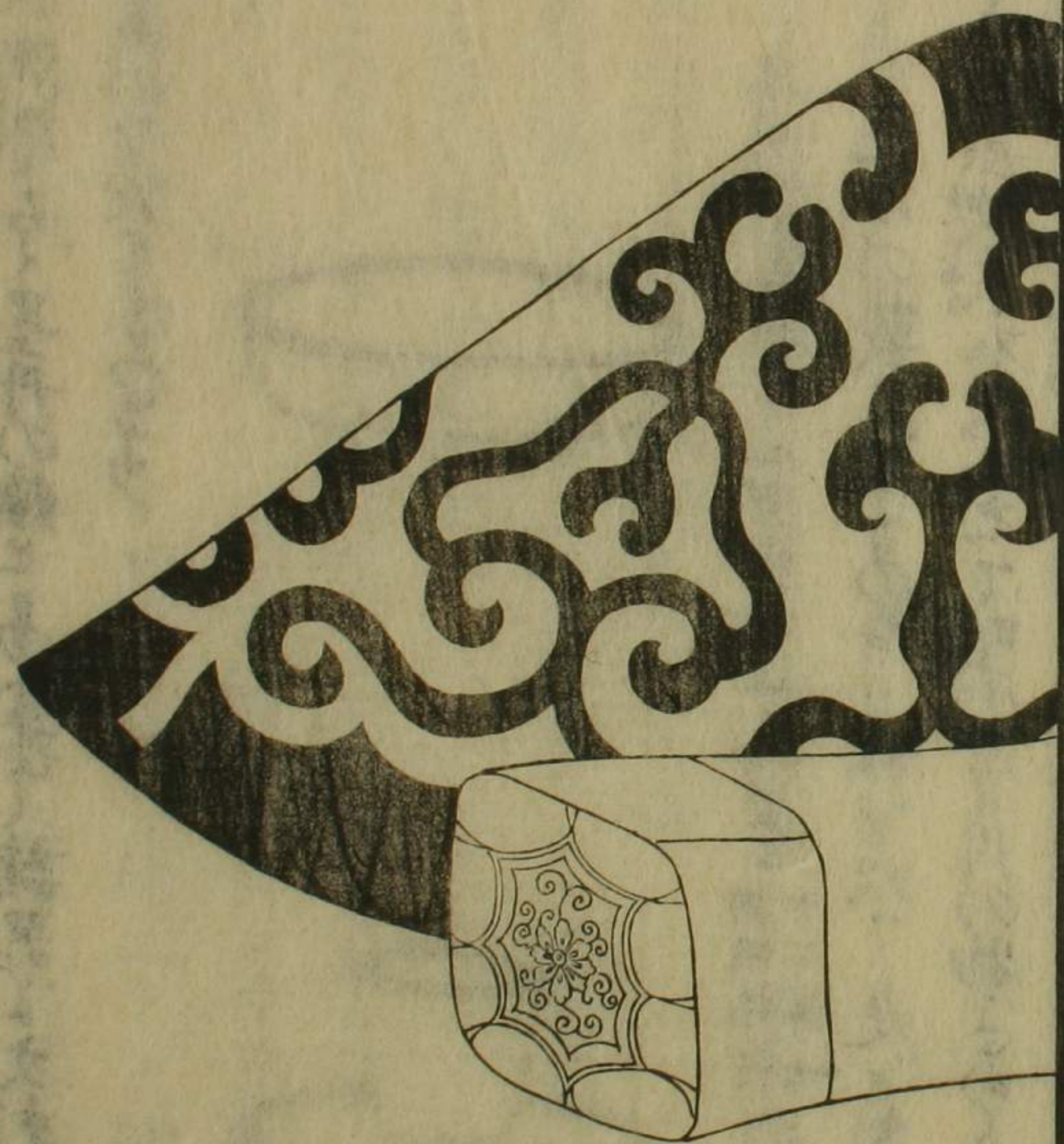


一 後圖の酒瓶は木を以て輪を製し外面は澁糊紙粘りて是を製し是は大小同くかゝり大抵二升より三四升までありと云
 一 夷はつら製はるゝところの相管あり圖のごとく石を以て是を造る又三弦の鼓器あり胴は圓く魚皮を以て是をうる蓋は東轆の易へ渡はるところなり又女夷の製はるゝところの枕笠の二器あり其狀圖のごとく枕は木綿を以て是を造り色絹を以て其横面小文彩し頭の觸るとあり別の木綿を巻く笠は樺木皮を以て是を製し同皮を染りて文彩をなはるゝ圖の如し



夷製三弦及烟管圖

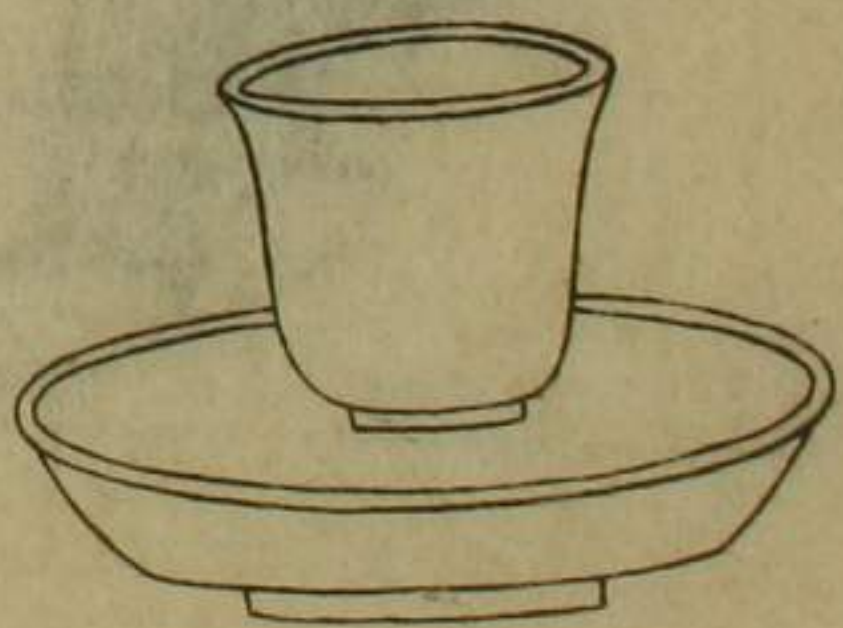
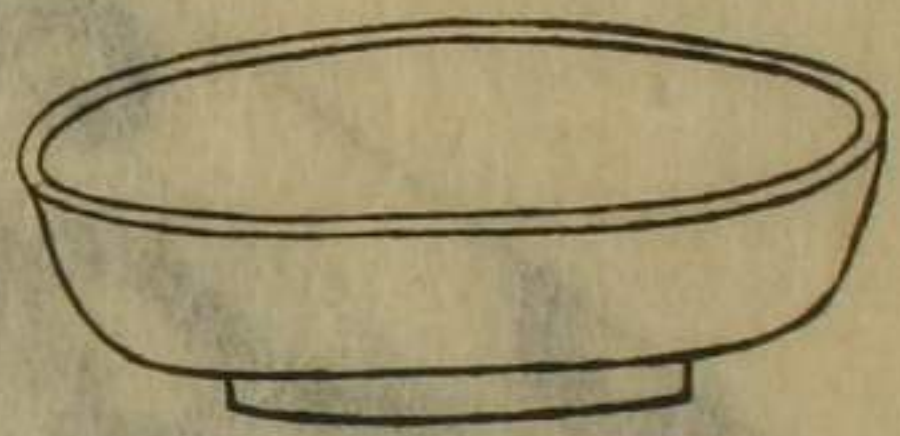




同枕筵圖



一 此夷種ハ滿州より墨丹の類と易く來り諸器ハ文彩とあり
是南諸夷の如くともあり



一 舟ハ悉く滿州の屬夷コルデツケハ仔者滿州紀行の中詳也の造ると
ころありて地夷の製するものあり松を以て是と製し其釘
悉く木也甚軟柔不便して堅密實用の物とあり

更小大洋波濤の中小用之べき物よりハ狀圖の如く是
林藏の地夷と同く來りて滿州に渡る舟なり

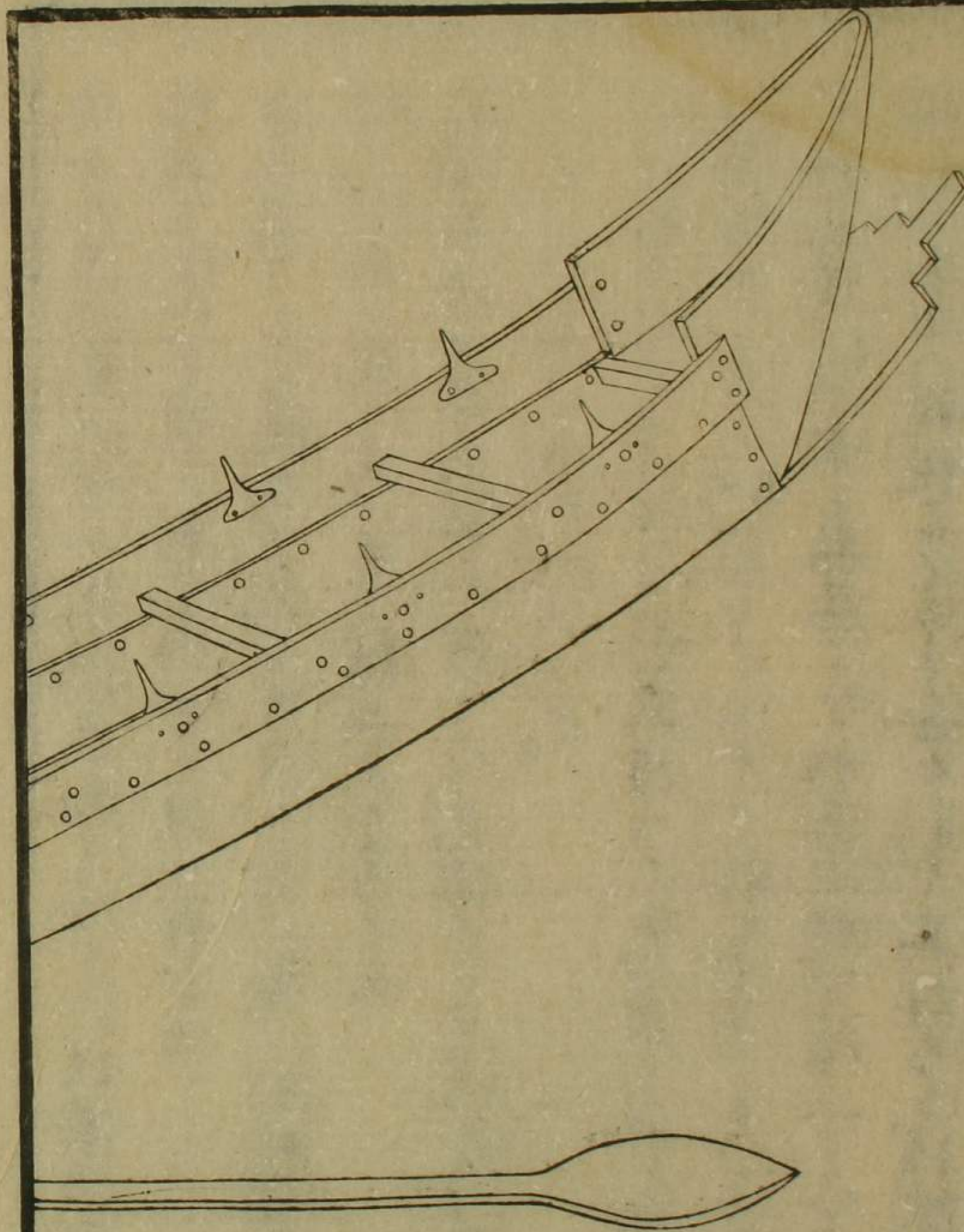
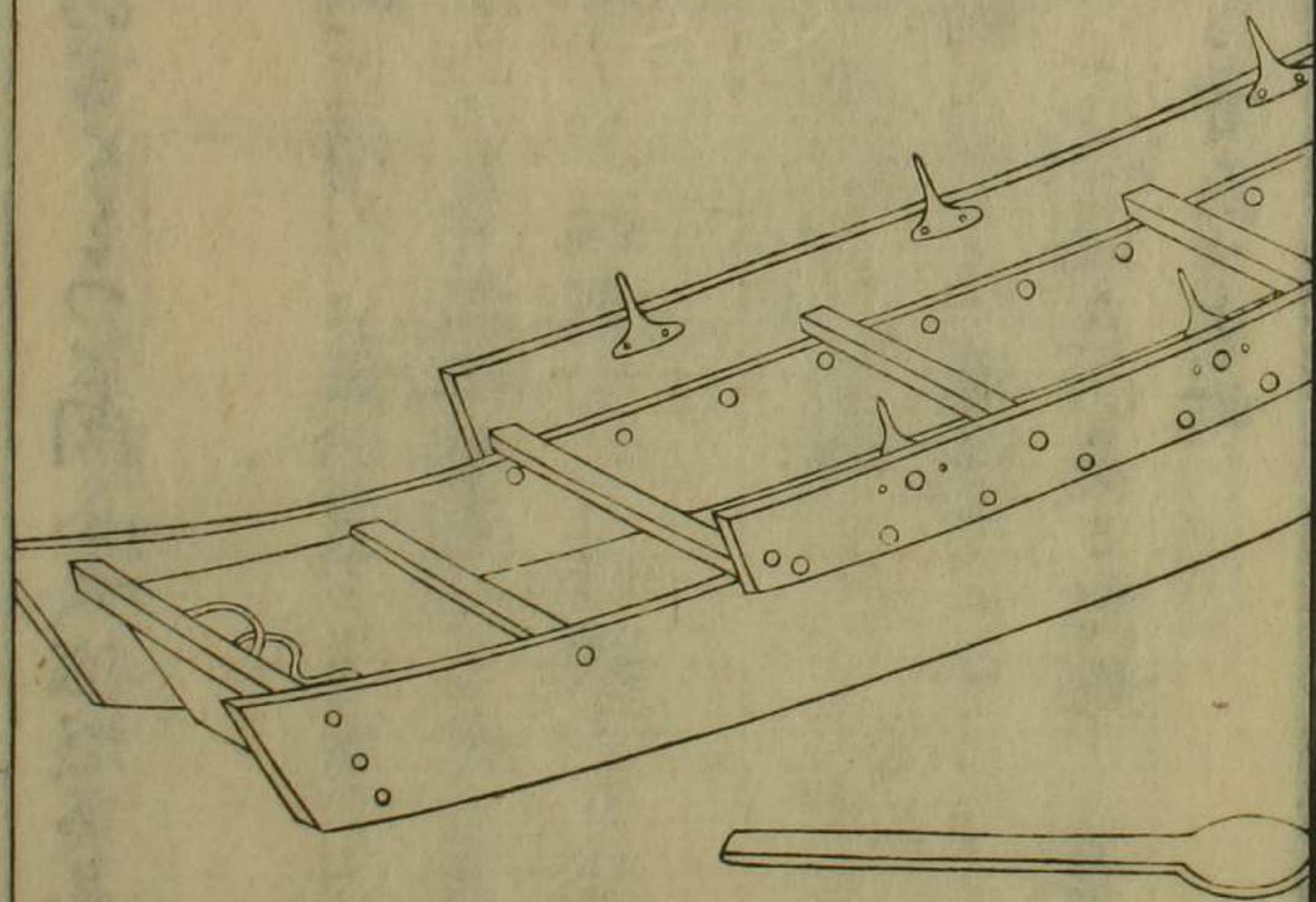
一 舟具異りたる物なり帆ハ魚皮を以て製し形蝦夷舟の如し
一 艦ハ初島小異りたる物なり稍長大なりと云

一 冠婚葬祭の事其詳なること見聞するものなり只其見る
やころ二三事と揚て此よりあり

一 冠と稱するべきものあり其禮も亦有べきありあり
一 此夷種キトウシ地名トイと稱するところあり其の間

て初島夷俗の者と雜居して相互に婚と結ぶことと嫌ひ其
婚禮の委曲ハ親視するところあり其詳なるは陳ゆるあり

コルツケ夷製舟圖

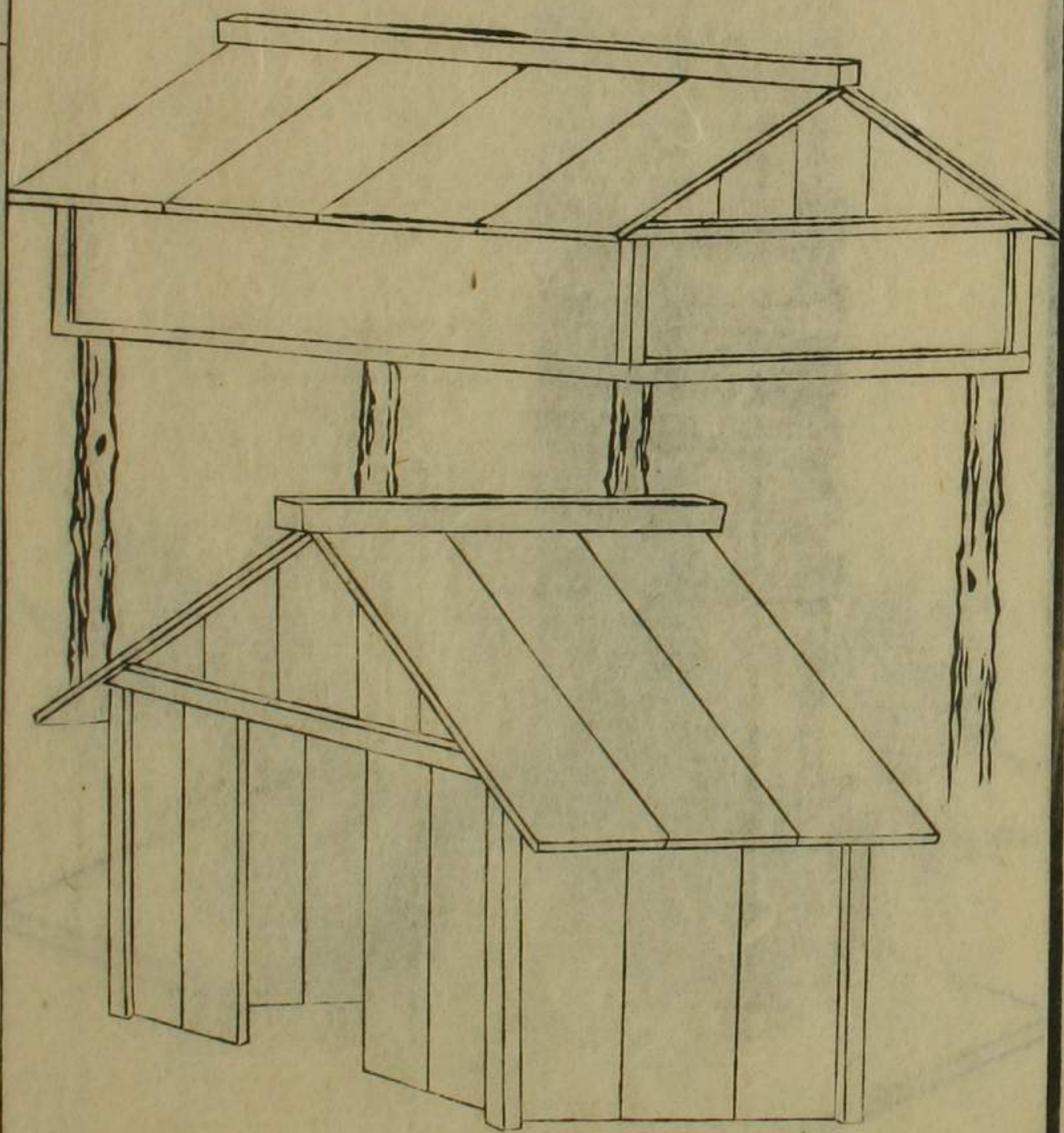


と得びとゞども夷の言とゞろと肉ふ大抵蝦夷島のまゝと
るの如し

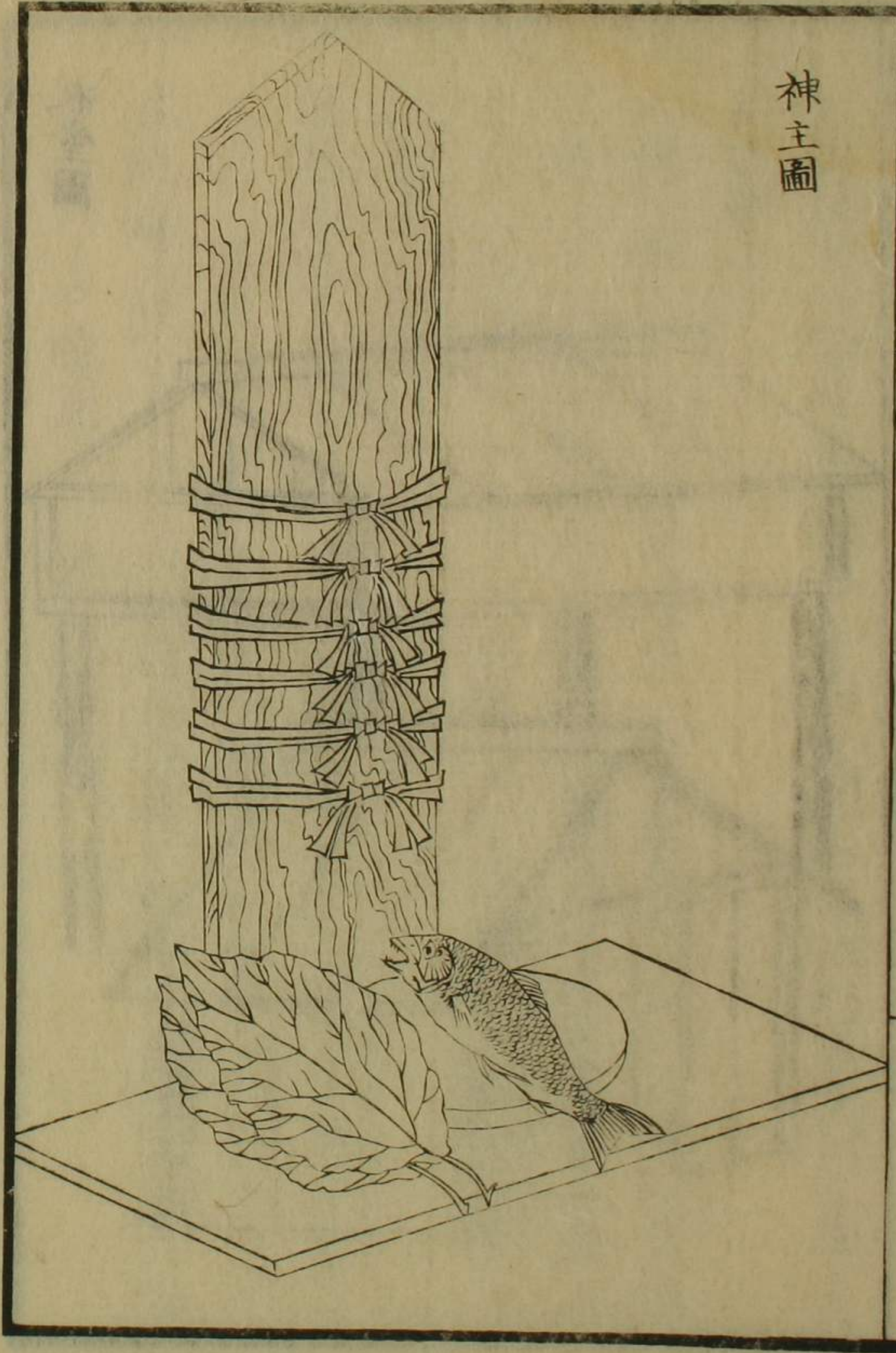
一 凡婚を結んとしる時は婿たる者の家より多く宝貨を舅家
に贈りて其女を請ふ事あり大抵酋長たる者は宝貨の最上
となし所謂ペツ千るゝ小奴僕一人を添贈ると結納此例
に貴女的情見あり

一 結婚同姓を忌む事其いそれと聞ふゞども殊小甚し
といふ 本邦後兄弟相忌むるの類絶てなむる事ありち
一 其結婚の状と見るに大分隔在の夷と結婚し甚之者八百
里の外より嫁娶しる者ありと云

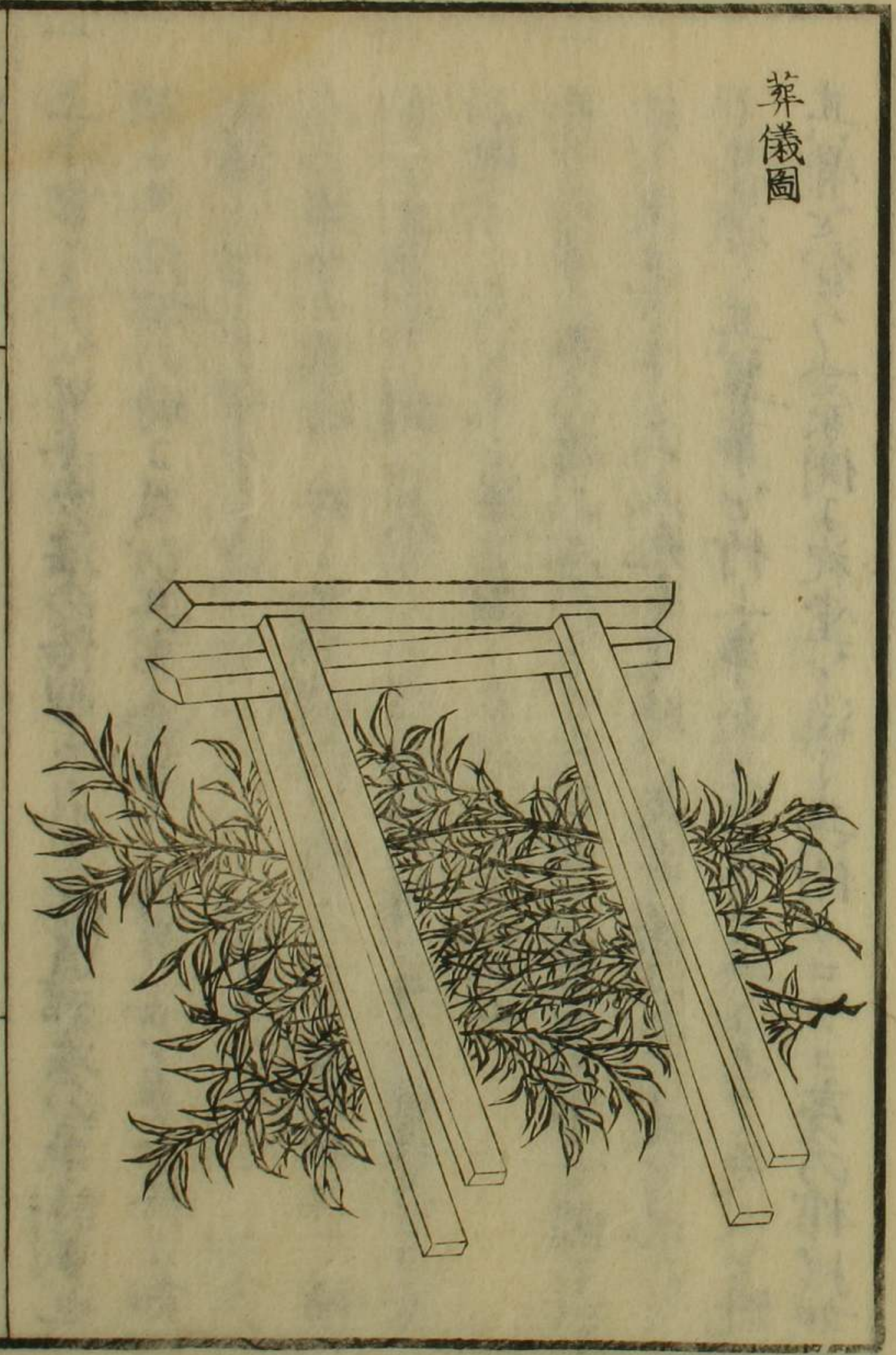
祀堂圖



神主圖



葬儀圖



一 上小言くく男女多淫の俗習かれど姦通邪淫の事許多也
 故に其結婚の時及び其事發覺し西男一女と争ひ終に相
 死傷ひつこと少くは

一人の處女小密通し終に僧老同穴と約くくするも相伴て婦
 家と出我家に誘ひ來ることあり其時殊に多く寶貨と女家
 小贈りて其父兄は罪を謝し家婦とちひと云

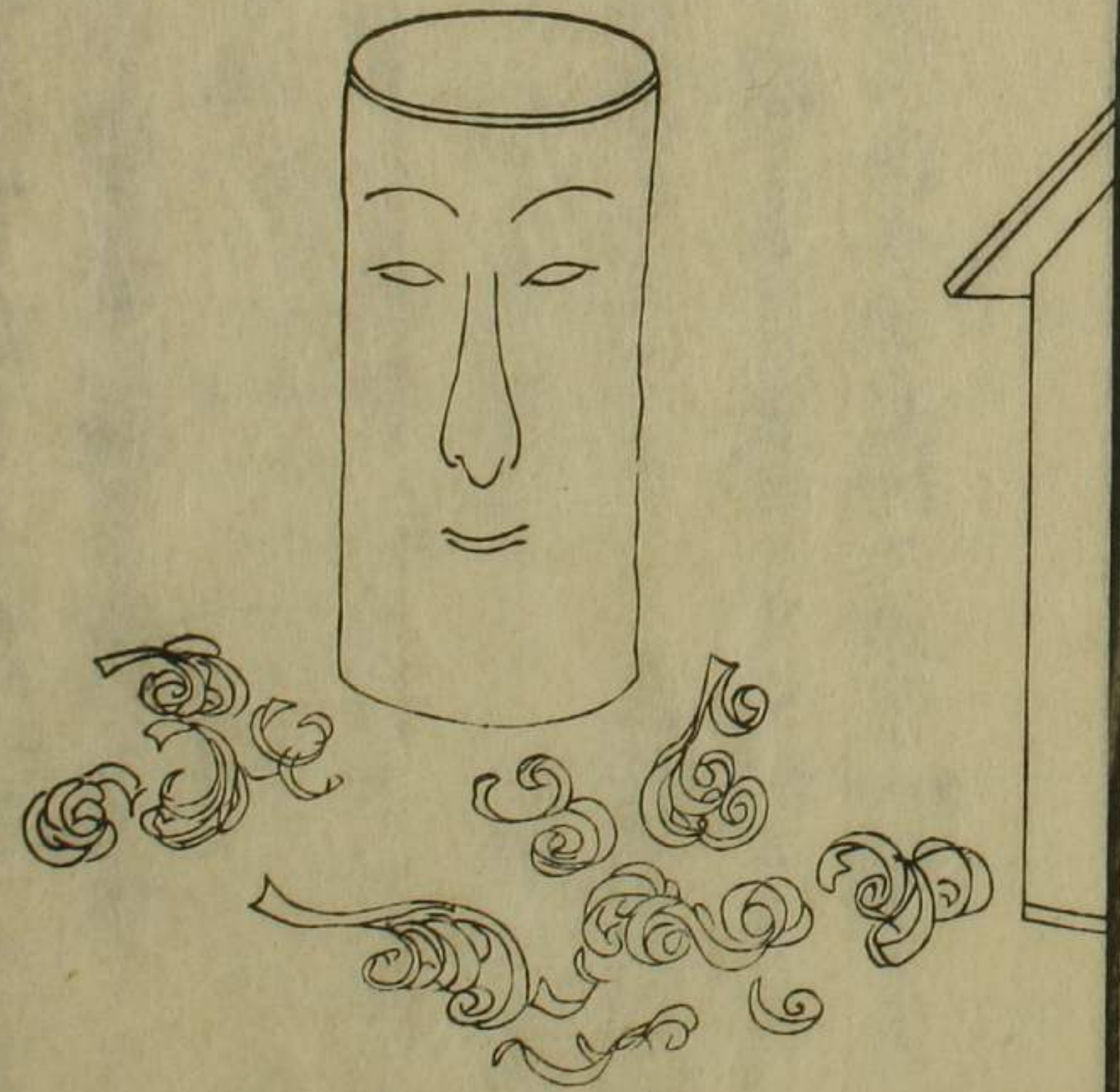
一 死亡の事ハ夷の殊小思むところなれど林蔵其事を聞かれ
 とも其見るところ人死する時ハ衆夷涕泣する是を悲むと
 と甚深く其葬事を行ふ事南方と大に異なるとて死人と焼
 其骨をむろふ家側は祠堂を造り其側ヲロツコ夷の棺れ如

キ、物と設く是蓋骨を納る物かぐり祠堂高さ凡二尺餘
 廣く是小のな小板を以て是を製し其内は圖れくくる神
 主と置魚肉煙草の類を供して是を祭る神主は結着ひるも
 のく布帛の裂かち如斯三四年の間是を祭るち其甚厚く後
 悉く毀ち去ると云

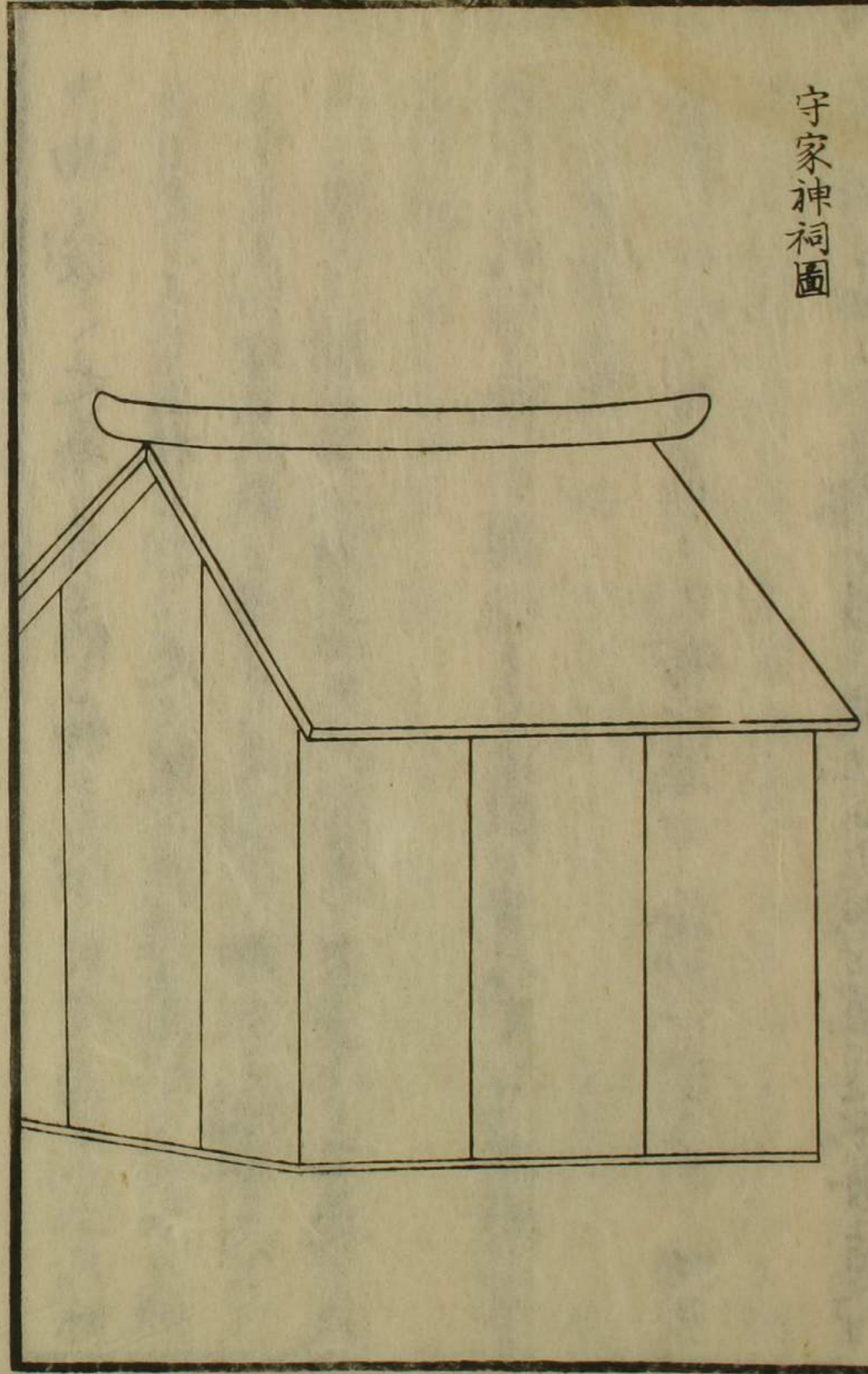
一 死人を焼たる所く圖のくく本枝と重ねおつて其側鳥居
 のごとキ物と建つ

一 海岸は魚獣の首と供し木幣と添て海神を祭るち蝦夷
 島のち

一 家内正面は小キ閣を設け其上は上祠を置て家毎は是を



守家神祠圖



祭る祠中小圖のどくある本製の神主ある何ものたるや
を知らば林藏其故を問ふとつども言語通ぜざれば夷の答
るところ瞭然とるべし蓋守家の神なるべしと云

北蝦夷圖説卷之四終

北蝦夷圖説附録

一此島スメレンクル夷の内毎年滿州の假府德楞名に貢皮獸
 と進め賞賜とらけて歸る來る者とハラタ長夷カーシクタ次夷
 と稱は是滿州夷の命びるところなりて蓋蝦夷島の乙名小
 使わどいし者の類なりて林藏あるところ此夷は會て
 其受命の起えと詰問せしむ往昔年代不知此島未だ滿州に入貢
 せざりし時何國の夷船蓋魯西亞の船なりと云然れふてや
 有々む年、此島に來り諸獸皮と交易せしむとありし其
 夷殊に暴虐ありて時々島夷と鬭争はるありし故に
 島夷常に是と恐る其後一やせ年代不詳蓋乾隆十二三年の頃なりしむら林藏島夷の蔵に

物と見しは満州錦と添へて与ふる黄紙と書せし満州夷多く
 の人数と率ひて此島小渡り徧く島中と巡檢せし事有る者
 島夷彼暴夷の襲ひ来ると思ひ往々逃竄して山に入る者
 多し其遁逃せびて海濱にありし者と呼出し其人物と
 撰び西海岸イトイ シラヌシと云ふ事百五十里余 と称する所は志てトル
 ーヌと名ぐる夷一人をハラタと名づけ夫より五十里許奥
 カウトと称する所は志て其名ウルトゴリなる者一人を命
 じ夫よりノテトの山路凡二十里許を越え東海岸に出トヤ
 カー一名メル と称する所は志て又一人を命じてハラタ
 ー 此夷の子孫何れの時や又何故に移りしや今其他
 西海岸タムララーと称するところの居住し

カーシンタと称する者あり諸方は多く是を命じ年々満州
 小入貢し其貢物を獣皮黒貂一枚と献らるるその賞賜と
 して錦一卷と與へ其他交易の物も又下直ありて是を與ふ
 一々や約して歸り去りしより年々入貢し來りて語り
 と云今イトイ此酋長テイ、又 今ウヤクトウは居は是林
 蔵同船して東鞆の假府に
 至りカウトの酋長モツケイ、又 以上二夷東鞆假府の
 蔵同船して東鞆の假府に
 カヌー 志て林蔵は是は會ひ の三夷皆其子孫としてハラタ
 と名ひしのかす

シラヌシと云ふ西海岸凡五十里許奥地はナヨロと称する所
 ありヨナイと云ふの間は土著する夷人其風俗は南方夷

子異なるなりと云ふもスメレンクル夷のこくハラタ
 カーシシタと称して其身満州に附属一年其府は至了貢
 と進め賞賜を受る者あり林蔵再見のつてトコンブ名地の夷
 フーレルシタル年凡七トナイヲロ名地のクン子トミ年凡
 ヲコ名地のイヘナシユイ年凡ナヨロのモンチーカンテ年凡
七十此四人の老夷は質問して其事の起元を聞くと得た
 すと云四人は老夷未だ幼弱の頃此事なりとナヨロ乃
 酋長ヤエンヒラカン蓋今の酋長ヤエンクルれ曾祖父と称して其人とれ
 了悍猾暴戾の者あり其所は満州のスメレンクルのサン
 タンの夷交易ふ為に來りたる者凡拾人許と殺し其齋來り

たる所のれば悉く奪て是を取此事濫觴夷の秘とて
 とを得ばといくども盗事を主として殺しあらむ其免れ得たる山且夷遁逃して國
 小歸り事状を以て満州の府に訴へ其翌年より満州夷
 船三艘を出し其屬スメレンクル山且の諸夷を率めてナヨ
 ロ小來り滿州夷此地に來る事是と始と以後役貢の事小
 定ちらざれば信用しざり其他タライカの邊に來りあ
 り年と徑るちいこ久しけきとも近年又其來りあやと休
 云と 去年暴をかや者の黨與悉く是と束縛トナイ
 島の酋長たる者残らび呼集り其側は在り其暴を制せざ
 るれ罪を責め刑を置んや云夷等叩頭して赦さるむことを
 請ふくも猶是と許さるれば衆夷其蔵らるところの寶器と

出しく其罪不贖あがらん事を請々あがらせバ夷俗是ヲツ夷俗是ヲツ 満州夷漸く不
 其寶器たからものと納めて其罪を救あがらはくともヤエヒラカンが事ハ
 此事の魁首くわいしゆとして其罪殊不重々あがらん其子カシテツロシケ
 ○ヨ一チテアイノの二人と出しく是を質とあり 将来満州
 小属をて山獵やまがしとたり一年毎に其獲るところ乃獸皮を以て府
 に来りて貢と入るべきは其賞賜の物と興あがらん且其他交易
 の事に至てハ其償物あがら許多を得るせん又後來属夷の者此土
 小来る者有とどしども慎あがらで暴をたふさくかたのれや約し諸
 寶器と納め其子と率いさめて其國小歸あがらりよ人質とるは
此時今代山且夷交易の諸品と島夷小貸置て其債と贖あがらふ事
あがらる者ハちとくく其子兄弟と釋あがらめて國に歸り質と

たひ世俗傳あがらへりよとくろ山且夷其地居夷の多うらん事を
 欲あがらしてカラフト島夷を買歸るとりよの蓋此事なる一
 年に入貢あがら懈あがらることありよあがらば其後年を経て二人の質を返
 以時不當あがらる書と流るる印を点して二人をハラタれ官と
 かり其他夷人の才ある者と換てカーシクタたり此書
 首長ヤエンクルが家傳ふといへあがらる満文を以て是と書
 副都統あがら印と刻せり林蔵が模寫あがらりて其時よりあがらて其子孫業
 と流るる今小玉島夷と率いさめて毎年はテレン即德楞
 貢と進むと云今ナヨロの首長ヤエンクル一人のみハラ
 タりて其他カーシクタたる者七人ありマナヨロ
 ナシカナシカのモニシユコテウシヨロのセイノバクル同イコ
 ナランケ東海岸ナイフツのリイシルアイノシヨンコイコ

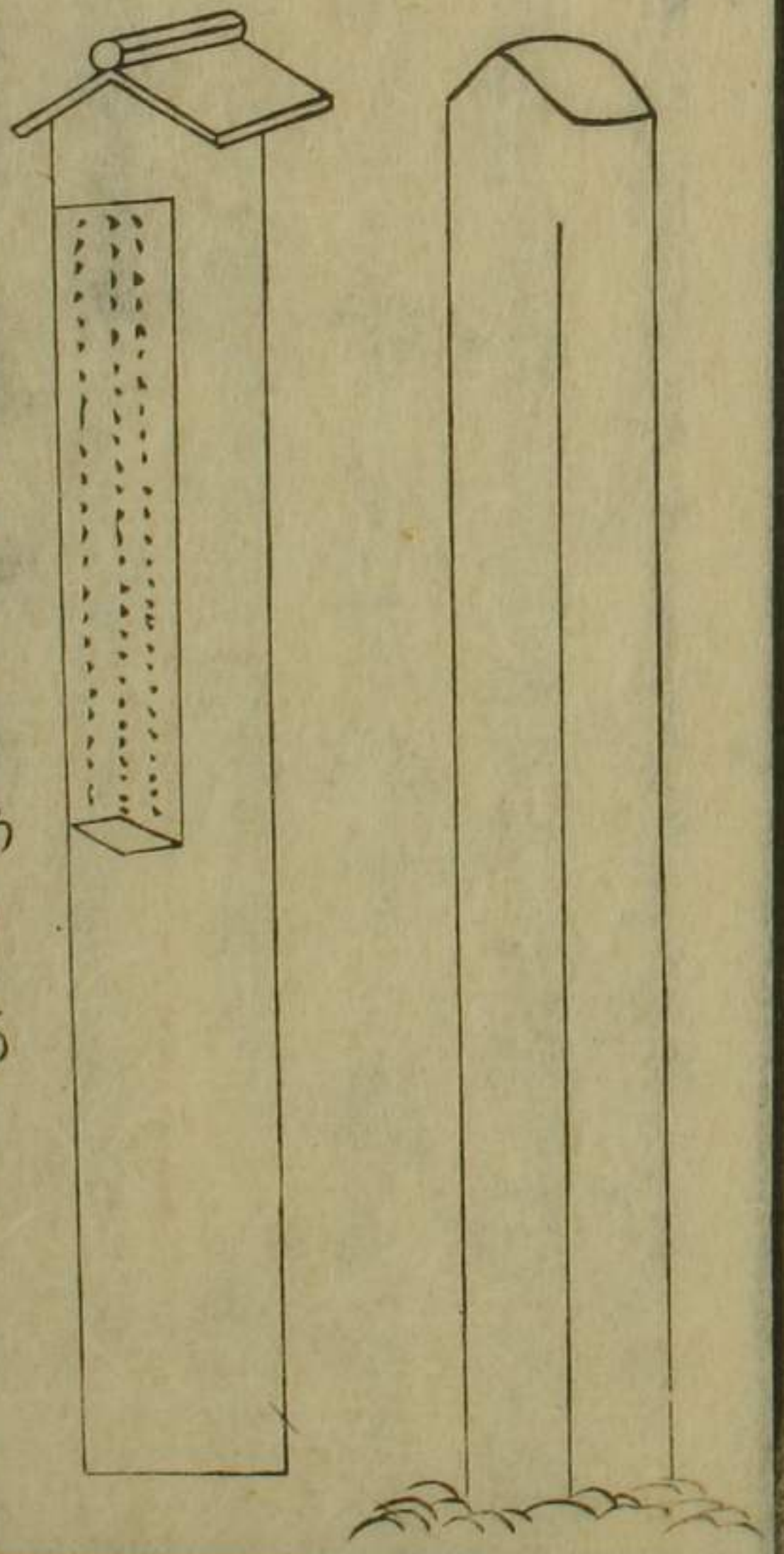
年のニシカニヌツ 然る小近年獣皮数あつたりて年々其府
 至るおやと得び漸西三年小一度も入貢せし小獣皮もこ
 年と逐ち少くあつたり凡四五年間も其府ふまて得ざり
 ち小満州夷時山且夷として其貢と使ひあつ頻なるが漸
 く卯年獲るところの獣皮も少うざると以て辰年夏カー
 シンタ三人イノハクルシロトマア島夷拾人許と率めて
 満州に趣くの途ノテトの埒はちて林蔵初見今の時是會
 一 再見今の時ホロコタンよりて又其帰船に逢ひくれど二
 夷小會して入貢の事状を問ふ衆夷皆曰満州の府小至り
 入貢の式舊例のおやしく黒貂皮一枚と献しンヤンケイ
 官人の夷

稱と採りけし其應接屢入貢せし時乃てかくわくび大
 小其入貢れ情あつる事と呵責一往時よりの恩恵と忘
 りやち罵り將來入貢の情わくむことと嚴謹とて歸せし
 と語りたり

一 林蔵至る所東韃地方の住夷スメレンクル○サンタン○コ
 ルテツケ○キムンアイノちと稱しる者とも大抵其部落毎よ
 ハラタ○カーシンタちる者と置て其地夷と指揮せしむと云
 一 此ハラタ カーシンタと稱しる者地夷のち其指揮よりく
 るふあつび東韃の住夷スメレンクル山且此十ヨロよ来る
 時ハ管ヤエンクルの指揮に随ひ是と敬し他の度夷は強る

小安談の語を以てする類の事と云々人島夷韓地に入るも
亦然りと云

一 東海岸ハンケタライカと称する所小往時滿州夷の建る處
の標柱あり今存在する所形圖の如く其文字ハ刻痕既ハ
漫滅して讀ぶべからず林蔵其地の夷ハタシニシユ名ある
者よりつて其往時の状と聞て往時ハ標頭ハ死後其
下文字を題するの文字の形と云々夷の自書ハ如斯四行を題
書せりと答ふ故小林蔵其後圖の如く其者を書きて
其形如斯かるや否と問小真然也と答ふと云故其
圖を贅し



一 ウシヨロよりノテト小玉るの間往昔魯齊亞の属夷カムキ
シメナモムワシレーヤと称する者ハ人來り住せりと云
て此夷をキーレンと称する種族の者ありて殊小姦猾暴戾
なる者よりて島夷と凌ぎ其婦女を侵し或ハ鬪争して庶
夷と殺し山且夷の來る者と相争ひるを以て云々其云々云

て大島夷の愁とカヤ〜と凡三四年の間カ〜後つ
ひ小島夷山且夷と共つ相謀て其族と討て悉く殺し盡せ
と云今小島夷とハ絶て来住らる者亦是スメリンクル夷
の言と〜あゆ故小林蔵それより〜来る處と向ふ東
緯北奥地東海の方より小船ヲ来ド来てカムカタよ〜此
島ヲ渡ッ来ると云と云

北蝦夷圖説附録終

美(の)ふ(ま)あ(ま)〜
松(の)ま(ま)〜
た(ま)〜
ゆ(ら)〜
度(〜)〜
さ(の)〜
か(〜)〜
所(ち)〜
ま(〜)〜

蝦夷國境輿地全圖

全九枚 繼

此圖ハ是まで諸家の秘蔵セシ蝦夷國程十種及び西洋夷乃
法圖よ採集集々大敵一北極度較小照して其大小方位と明わし
本比より法島々滿州魯西亞西國の界を正す近の山川湖沼の諸程
地名村名その他悉く輿地と係りたる詳載と漏れりは存す一回は是
同く六蝦夷國境方千里の地歴の掌の上より其の善不善古今未嘗の圖也

蝦夷路程便覽壺の石

多氣志樓主人著

全二枚 繼

此書と東西蝦夷の路程運上屋番屋の地凡五十箇所宛以
記す小基桿の目とりの左右の隅より互に斜小界して一面は併
對し里數の遠近相距との一目小審み且各地條下は其同系
産物と略載せり蝦夷行程記乃至て管便あるもの小く是當今
一奇冊といへべし

頭書 蘭漢先生著 四書略解

附録共

全十一冊

世小國字俗語を以經典以解釋するその教本のまじり海
一も童蒙初学は為小要と譯りしは今その略解の書ハ
云約めて能賢教へ給ふ所の本旨大要以明小するあり
勝と文を之を親く物語する小矣なり且上層小ハ本文小字と
注を寫小當時の宮室器物の類審小字と画して之を以て解し
その一目小瞭然ありしはこれハ實小回來のりしものハ天地懸
隔せし事小く未学初学は童子一度嘗て見まば則よく道
義以登明する事ハ云小及ぶと謙義と試むりしと雖も其意
と譯ることありしは云小及ぶと謙義と試むりしと雖も其意
乃多あり一本と譯へらるるんハ此の原るるものなり

